

葵大読書プロジェクト
児童教育学部児童教育学科
児童教育学科の先生からのおすすめ図書リスト 2025年度版

稲木真司 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	侍	遠藤周作著	新潮社	S9/9758
高校生の時に初めて読み、かなり衝撃を受けたのを覚えている。ストーリーは実話がもとになったフィクションであるが、東北の田舎侍が支倉常長のお供としてヨーロッパに行き、果てはローマ法王に謁見する。武士道の中での生まれ育ったこの田舎侍はキリスト教を拒否しようとするほど意識し、いつの間にか信じるようになっていた。大人になって改めて読み直す機会があったが、新たな発見と感動があった。ストーリーにも感動したが、この田舎侍の心境を鮮明にまた自然に描写する遠藤周作の表現力にも感銘を受けた。自分の存在や信念、信条についてあまり深く考えたことのない現代の若い人たちに薦めたい名著である。				

大志民彩加 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	ルボ誰が国語力を殺すのか	石井光太著	文藝春秋	S3/23250
子どもたちの国語力の喪失が、いかに重大な問題となっているのか。 この本では、『ごんぎつね』が読めない小学生や、反省文が書けない高校生など、実際に教育現場で見られた、子どもたちの国語力の喪失を裏づける様々なケースが紹介されています。 そして、子どもたちはいったいどのような背景や要因から、思考・表現するための言葉が奪われてしまっているのか。 そこには、家庭環境、教育改革、インターネットによるコミュニケーションの多様化など、現代の子どもたちを取り巻く様々な問題や課題が影響しています。 このような現状と背景を知っておくことで、皆さんが実際に教育・保育の現場に立ったとき、教育者・保育者として子どもに投げかける言葉がいかに重要なものであるかを考えることができるでしょう。 言葉は、子どもたちの思考や表現に影響を与えるばかりでなく、子どもたちの生き方そのものに大きく関わっていきます。 この児童教育学科で学ぶ皆さんに、ぜひ手に取ってほしい一冊です。				

小椋郁夫 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	自然の観察	文部省著/日置光久 [ほか] 編集・解説	農山漁村文化協会	375.422/122
戦後作成された我が国最初の学習指導要領の作成過程に関わった昭和16年に出版された国民学校の教師用書。子どもの関心や感性を大切にし、子どもが自然に親しむ中でどのような観察を行い、科学的に考える力の育成を図っていくかについて、多くの事例が紹介されている。				
2	自由と規律：イギリスの学校生活	池田潔著	岩波書店	S3/9760
1949年に第1刷発行から今日まで100刷以上発行されている名著。40年ほど前、文部省の先生から、ゆとりの教育の中の自由を考えるうえで是非！と紹介していただいた。一昨年、ある教育長からも同様の内容で紹介された。ここにこの本の素晴らしさを感じる。本の紹介には、「ケンブリッジ、オックスフォードの両大学は英国型紳士修業と結びついて世界的に有名だが、あまり知られていないその前過程のパブリック・スクールこそ、イギリス人の性格形成に基本的な重要性をもっている。若き日をそこに学んだ筆者は、自由の精神が厳格な規律の中で見事に育まれてゆく教育システムを、体験を通して興味深く描く。」とある。筆者はこの著の「その生活」の最後に「彼等は、自由は規律をともない、そして、自由を保障するものが勇気であることを知るのである。」と述べている。また、「スポーツマンシップということ」では、スポーツマンシップとは、「彼我の立場を比べて、何かの事情によって得た、不当に有利な立場を利用して勝負することを拒否する精神、すなわち対等の条件でのみ勝負に臨む心掛けをいうのであろう。」と。いつの時代にも教育について考えるうえで貴重な存在の本であろう。				

門松愛 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	おんなのこば	茨木のり子詩	童話屋	911.5/149
—自分をカづけてくれる言葉が欲しい、と思ったことはありませんか。共感できる言葉が読みたいと思ったことはあるでしょうか。そんなときにおすすめするのが、「わたしが一番きれいだったとき」で言わずと知れた、茨木のり子の詩集です。 私が茨木のり子に初めて出会った記憶は、高校の授業でのことでした。そのときは、深く感銘を受けたわけでもなく、詩とはこういうものなのかという感想を抱いたのみだったかもしれません。しかし、大学生になり、新たな生活のなかで一人暮らしをはじめ、一人思い悩んだり、苦しい経験も味わうなかで改めて読み直してみると、深く共感できる、ときめきを覚えるような言葉があふれていることに気づきました。 何だかわからないけど心細い時、綺麗な言葉に触れたい時、力強い言葉に触れたい時、ときめく言葉に出会いたい時、だまされたと思って開いてみてください。あなたの求めている言葉がきっとそこにあります。				
2	子どもたちの階級闘争 :ブロークン・ブリテンの無料託児所から	ブレイディみかこ著	みすず書房	369.4/583
イギリスの「底辺託児所」で保育者をしていた著者によるユーモラスなドキュメント。5ページずつほどの短編なので読みやすいです。貧しい子ども、移民の子ども、複雑な家庭背景をもつ子ども、あなたなら、このように様々な背景をもつ子どもに対して、または保護者に対して、どのような保育ができるでしょうか。または、その実情についてどのくらい想像ができるでしょうか。本書では、イギリスで日常的に起こっているのであろう貧困、偏見、差別の煽りを受けた保育士や子ども、保護者が多く登場します。また、著者が述べているように、政策によって保育現場がこれほど（悪い方に）変わるのかということにも驚きを覚えます。一方で、ともすれば暗くなりがちなこれらのテーマが著者の独自の見方でユーモラスに記され、子どものかわいらしさやたくましさはどの国でも共通することだと感じることもできます。保育者でもある著者自身の目を通して、これらの実情を知ること、保育者や教育者は世の中にある様々な価値観と闘いながら生きていく仕事なのだと感じました。柔軟な価値観には幅広い知識が不可欠です。実情を想像する力を育むためにも、ぜひ読んでほしい一冊です。				

榊原剛 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	「自分の木」の下で	大江健三郎著	朝日新聞社	914.6/314
大江健三郎は言わずと知れたノーベル賞作家ですが、その著作は難解なものも多く、「読んでみたけれど途中で挫折した」という話も多く耳にします。かくいう私もその一人で、最初に手に取った一冊は途中で投げ出しました。ある時ラジオで永六輔が、「大江健三郎は短編から読み始めるといい」と言っているのを聞いて「なるほど」と思い、短編集を何冊か読んだところ、詩的なことばで、窮地にある人々の姿を、読む者を当惑させるように描くその世界観に、どハマリしました。 本書は週間朝日に連載されていた、「なぜ子供は学校に行かねばならないのか」をはじめとする16のエッセイ集です。大江自身が、「子どもにもわかる童話のようなエッセイ」と評する通り、小学校の高学年や中学生くらいの年代を意識して、極めてシンプルな文章で、こどもが面白がるような工夫を凝らして書かれています。大江自身の経験を紹介しながら、生きていくこと、成長していくこと、学んでいくことのための確かな智慧を伝えてくれます。				

佐々木基裕 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	説教したがる男たち	レベッカ・ソルニット著/ ハーン小路恭子訳	左右社	367/2296
2018年に読んだ本の中で、もっとも考えさせられました。後にネット上で「マンスプレイニング」という流行語を生むことになった著作の翻訳です。 みなさんの周りに、聞いてもない説明や説教を上から目線でしてくる男性はいませんか。自分がいくつであって、「ものを知らない娘」扱いを受けた経験はありませんか。それを上手に受け流すことが女性の「愛嬌」だなんていう風潮はありませんか。そうした日常・個別的な女性「あるある」を出発点として、その根底にある他者をコントロールすることへの欲望へと議論が展開されています。 自身の経験を振り返ってみると、確かに「マンスプレイニング」したがるおじさんは多かったように思います。また中年に差し掛かろうとしている同世代も、自戒を込めて言えば私自身も含めて、いつしか「マンスプレイニング」野郎へと変身しかけている気がします。反省させられました。 しかし同時に反撃したくもなりました。「マンスプレイニング」と同様の感覚を、「共感ハラスメント」とでも言いたくなるような場面を男性としてしばしば経験しているからです。『共感させたがる女たち』というタイトルの本があれば読んでみたいと思います。				

渋谷寿 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	精神科学の立場から見た子供の教育	ルドルフ・シュタイナー著 /大西そよ子訳	みくに出版	371.2/129
この本は、ルドルフ・シュタイナーの書いた本の復刻版である。私は1980年発行のものを持っているので、35年も前の、言わば古典である。私は現在、子どもの遊びや玩具を研究しているが、その最も根底にある哲学的基盤とした原点とも言える書である。 シュタイナーの著書は、彼の人智学という神秘学的人間論に基づいている故に難解なものが多く、ともすれば誤解が生じやすい部分はあ る。しかし、この本は、幼児の成長の本質を、いわゆる目に見える部分としての自然科学的な認識だけでなく、目に見えない部分を含めて理 解しようとする立場で書かれている。よって、耳慣れない単語や聞き慣れない用語という小さな壁を乗り越えて心で読み解くことで、幼児の 行動や大人の幼児への関わりの、教育としての本質的なあり方を感じ取ることができる。 この本は、シュタイナー自身の著作の中では最も読みやすく、幼児に最初に与えるべきお人形の、具体的記述もある。市販の可愛い人形を 与えるのではなく、自然素材の古ナプキンで人形をつくり、顔はインキで眼、鼻、口を描いたものこそが、幼児が生命ある存在を感じ、想像 力から健全な脳を形成するという論考に異議を挟む必要は無いであろう。先入観をなくして読み感じてほしい書である。				
2	フィンランドで見つけた「学びのデザイン」：豊かな人生 をかたちにする19の実践	大橋香奈, 大橋裕太郎著	フィルムアート社	379/201
フィンランドは、自然が美しい北欧の国の一つですが、最近特に、子どもたちの学力の高さが話題に上ります。OECD（経済協力開発機 構）によるPISA（生徒の学習到達度調査）は、毎回世界のトップレベルであることから、その要因が研究され多くの出版物も出ています。 しかし本書は2人の著者により、調査やインタビューを通して、フィンランドにおける学びの実践が紹介されており、学校教育と学びはどう あるべきかという視点にヒントを与える、少し異色な「学びを考える」内容になっています。 「学びのデザイン」というタイトルもやや変わっています。デザインとは、目的を持って実用的に形を考え、立案、計画、設計をすること と解釈するなら、本書で、デザイン先進国のフィンランドにおける、様々な視点による、学びに関する新たな課題や問題解決策を具体化する という、次のような学びのデザインの実践と成果を見ることができます。 1. ミュージアムと「学び」、2. 図書館と「学び」、3. メディアと「学び」、4. 自然と「学び」、5. 人生と「学び」。これらを読 み解くと、人間が豊かに生きていく上での生涯学習にもつながり、真の子どもたちの学力にも結びつく学校外教育について、フィンランドで は、いかに多様で大きく深い視野のもとで「学び」が仕掛けられているか理解できると思います。そして、「教育」と「学び」との関係を じっくり考えてみてほしいと思います。				
3	人間の関係	五木寛之著	ポプラ社	S9/13896
今、教育の世界が大きく変わろうとしている。質も量も求められ、先生という職業もなかなか大変な時代になってきた。教育者を目指し、 社会に出てプロになるということは子供や同僚、家族など様々な人間関係の中で生きて行くことになる。五木は、変わる時代に変わらないも のを考える上で、「人間」を考えるより「人間関係」を考える方が重要だと説く。私は若い頃、人間を考える上で、1912年にノーベル生理 学賞を受賞したアレクシスカレル著「人間この未知なるもの」（1952年、桜沢如一訳）を読んだ。カレルが語った近代科学を超えた、人間 の生命の不思議さ、肉体と精神の関係は、科学が進んだ現代でも解き明かされていないし、永遠に解明されないのかもしれない。しかし本書 は、視点を「人間の関係」に着目し、今という変化の時代に、変わらないものを探すことにより、生きる13項目のヒントを易しく教えてく れる。コミュニケーション力は教育者になる上で非常に重要である。大学生活も友達との関係から始まる。本当に変わらない大事なものを、 本書をヒントに探って欲しい。				

島澤ゆい 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	迷路の外には何がある？ ：『チーズはどこへ消えた?』その後の物語	スペンサー・ジョンソン著 ；門田美鈴訳	扶桑社	SI/18937
私がこの本を読んだ最初の感想は、“何かやらなきゃ”でした。 この本は、1998年に刊行された『チーズはどこへ消えた?』の続編となります。著者は、アメリカの心理学者です。ビジネス書として定 評のある2冊ですが、心理学や哲学の観点からもこの本を読み解くことができます。 みなさんは、「頑張っているのに報われない」「自分はダメなやつだ」とネガティブに感じたり、「自分は間違っていないのに」と意固地 になったりして、なかなか次の一歩が踏み出せないということはありませんか。そんなとき、この本を手にとってみてください。みなさんの 新しい一歩が、きっと見えてくると思います。 “心理学”と聞くとなんだか難しそうに感じられるかもしれませんが、自分を見つめなおしたり、自分自身の心について考えてみたりする ことを、この本を通して経験してみてください。				

杉原央樹 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	せんせい。	重松清著	新潮社	S9/10250
	この本を読んだのはずいぶん前のことですが、今でも時々思い出し、読み返すことがあります。この本『せんせい。』は、タイトルのとおり、多くの「せんせい」が登場する短めの作品集です。しかし、どの話も、理想的でかっこいい「せんせい」が活躍する話ではありません。どの「せんせい」も不完全で、ダメなところが目立つ、人に好かれるばかりではない人物として描かれています。「理想の教師」を目指す人にとっては、もしかしたらこのような「せんせい」の姿をみて、憤りを感じることもすらあるかもしれません。時々、「先生も人間だから」といわれますが、実際、どういう意味で「人間だ」というのでしょうか。この本を読むと、そんなことを考えさせられます。あこがれている先生がいる、「理想の教師」を目指している、そんな人にこそ一度読んでもらいたい一冊です。			
2	ヨチヨチ父:とまどう日々	ヨシタケシンスケ著	ポプラ社	S5/24553
	ヨシタケシンスケさんは最近特に人気の絵本作家さんですが、この本は、2児の父でもあるヨシタケさんが「父親としてはじめての日々と心情」を描いた、あまりにもリアルな育児イラストエッセイです。タイトルのとおり、「父」ととしてはじめて子どもたちと接するお父さんたちの「とまどい」を描いた作品ですが、同じ父親としては共感することばかりです（読んだ当時の帯の文章には「パパは共感。ママは落胆。」とありました。ママ視点で読むとがっかり、イライラするのかも？）。イラストが多く、また文章も少ないので大変読みやすいのですが、イラスト付きで読みやすいからこそ、考えさせられる部分も多いと思います。教育や保育、育児に関心のある方には一度読んでいただきたい一冊です。ヨシタケさん、ここまで正直に描いたこと、尊敬します。			

高橋哲也 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	兵隊さんに愛されたヒョウのハチ	祓川学作/伏木ありさ絵	ハート出版	J48/43
	兵隊さん、ヒョウ、というワードから結末は想像がつかかもしれませんが。戦争と動物たちとの物語は数多く語られてきています。しかしそんな中であえて、なぜこのような結末を迎えなければならなかったのかを考えさせられる本です。文章は小学生向けに書かれており、大学生の気持ちで読むには物足りなさが残るかもしれません。しかし、将来、子どもたちに紹介したい本として、子どもの気持ちでどう感じるかを考えながら読むのにはちょうど良い内容と思われます。小学生向けの簡単な文章で150ページほどですので、読破するのにほんの1時間前後しかかかりません。特にネコなどペットを飼っている人には、動物が人の気持ちにどのような温かさをもたらすのか、ペット自身はどんなことを考えているのかということを考えながら、お家で飼っているネコやイヌと重ね合わせながら読むと良いと思います。			
2	人生はニャンとかなる！ :明日に幸福をまねく68の方法	水野敬也, 長沼直樹著	文響社	SI/8981
	茶トラの猫がアップで写っているかわいらしい表紙をめくると、「もし道に迷ったら、一番いいのは猫についていくことだ。猫は道に迷わない。」というチャールズ・モンロー・シュルツの言葉に意表を突かれる。難しい哲学の本なのかなと思ってさらにページをめくっていくと、そこには1ページを大きく猫の写真が占め、写真の下にはまさにぴったりとくるタイトルが付けられている。そのセンスの良さに思わずクスッと笑ってしまう。しかし、そのタイトルは嫌みがなく人生の中で大切なことを教えてくれる言葉となっている。1匹目の猫と言葉を楽しんだ後、そのページをめくると裏には、言葉が誰のものであったのか偉人の名前と説明が記載されており、どのような人生の中から生まれた言葉なのかを知ることができる。そのページの右には、すでに次の猫が次の偉人の言葉を紹介しており、知らず知らずのうちに68匹の猫たちから人生の大切な言葉を教えられていることを知る。最後には悩むのがバカらしくなるようなスカッとした気分になれる本である。本書は90万部、さらに続編の「人生はもっとニャンとかなる！明日にもっと幸福をまねく68の方法」や犬を題材とした「人生はワンチャンス」などを合わせたシリーズ累計は180万部のベストセラーである。			
3	わたしのげぼく	上野そら作；くまくら珠美 絵	アルファポリス	SJ9/23788
	児童教育を学ぶ人にとって絵本は教育アイテムとして重要なものの1つです。こらからの大学生活で多くの子ども向け絵本を読むことになるでしょう。しかし、この本は“大人向け”絵本です。絵本ですからすぐ読めます。しかし、絵本ですから本から伝わってくる絵とそこに添えられた「わたし」の言葉のインパクトは一般的な本よりもすぐには消えないかもしれません。「わたし」が語っていくいかにもネコが思っているような考えが、あえて高飛車な表現をすることによって、「わたし」の「げぼく」に対する感謝や愛情として伝わってきます。ネコたちや私たちがこの世にやってきて一生を全うし、「そら」に行くまでにするものの意味を考えさせられる作品です。			

坪井眞里子 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	クララ・シューマン	モニカ・シュテークマン著 /玉川裕子訳	春秋社	762/285
ドイツロマン派の作曲家ローベルト・シューマンの妻であり、ピアニスト、作曲家としても活躍をしたクララ・シューマン。女性の音楽家として世に出ることが難しかったヨーロッパ19世紀前半に、社会に認められピアニストとして活躍しました。ローベルトと結婚するまでの経緯は困難なものでしたが、音楽、そして女性として、自己実現にいたる生き方は、音楽そのものでした。この結婚は、類まれなる音楽科同士によって築かれた理想の共同体でした。彼女が存在によってローベルトは、溢れるインスピレーションを得ました。結婚生活は、ローベルトの精神的な不安定と溢れてくる音楽、家事によって、クララは幸福と幻滅に満ちていたとされています。7人の子どもを育て、その人生において、音楽を職業として生き、ローベルトが亡くなった時も「私の人生にとって、音楽はなくてはならないものですー今しばらく音楽のない生活に耐えねばならないようでしたら、私は間もなく破滅してしまうでしょう」と語っています。クララ・シューマンはその人生を通して、音楽と共に自己実現していった芸術家です。その自己実現の軌跡と音楽に対して生涯失われなかった真摯な生き方をこの本を通して感じてください。				
2	野口体操入門：からだからのメッセージ	羽鳥操著	岩波書店	S4/15467
音楽に関わるものとしての身体感はどうにあるべきなのでしょう。東京芸術大学で体育の授業をしていた野口三千三氏の身体感や授業に基づき、著者は直弟子として野口体操から得られる「からだからのメッセージ」をうけとるという感覚やその内容について述べています。野口三千三氏の身体感は「生きているからだは、皮膚という伸び縮み自由な大小無数の穴が開いている袋の中に液体的なものが入っていて、その中に骨も内臓も脳も浮かんでいる」というものです。音楽や芸術に関わっていく場合、自分の身体を自由にしかもじっとしていても、内部はものすごく動いていると感じたり、緊張と弛緩を自然に使うことが、表現力といかにに関わり、高めていくことができるのか。私自身は大学時代に野口体操と出会い、身体の内在方を自分自身に問い直す機会となりました。大変衝撃的で歌うこと・ピアノを弾くこと・楽器を演奏し表現していく上で、身体のかえ方の転換で自分自身の内在方そのものが変わってきました。本書では身体感覚を蘇らせる、重さ・はづみと筋力、上体のぶらさげ・ストレッチの意味など体操そのものにも詳しく解説もあります。この本を通じて、今一度表現することと、身体の内在方について考えてみましょう。				
3	音と言葉	フルトヴェングラー著/芳賀檀訳	新潮社	S7/9555
ドイツの指揮者フルトヴェングラー氏が様々な論文、講演を収録したものです。一人の音楽家が真摯な態度で音楽と向き合った論考はクラシック音楽、とりわけドイツリートに強く惹かれていた私にとって宝の山のように感じました。音楽と詩における二元性の同一化、言葉という現実が音楽の自由な翼を得たことにより、より芸術的に拡がりを持つのです。リートの終局の印象は詩の美しさそのものによるものだけではなく、それが音楽的な実現になり得るものであると書かれているところでは、深い感動を覚えました。「ヒンデミットの場合」と題した章では、ナチスが退廃作曲家としてヒンデミットの作品の初演を拒んだときに新聞に投稿されたものであり、彼を擁護したことにより、フルトヴェングラーはベルリンフィル等の公職を辞することとなりました。これに言えるように彼の生き方は誠にシンプルで、単純なものは美しいという冒頭の言葉そのものです。大変な時代を音楽とともに生き抜いた指揮者、その時代の人々の息遣いと音楽の流れを十分感じることできる意義深い本です。				

出木良輔 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	のんのんばあとオレ	水木しげる著	講談社	準備中
映画「鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎」が爆発的な盛り上がりを見せましたね。原作者の水木しげるや「ゲゲゲの鬼太郎」に興味を持った方、まずはこの漫画を読んでみると良いですよ。フランス語にも訳され、ヨーロッパ最大級の漫画イベントであるアングレーム国際漫画祭で作品大賞を受賞した傑作です。 妖怪漫画家・妖怪研究家として知られる水木ですが、彼の妖怪への関心を開眼させたのが「のんのんばあ」という家政婦のおばあさんでした。妖怪、お化け、「あの世」に詳しいのんのんばあと少年時代の水木の交流が「のんのんばあとオレ」では描かれます。 この物語が教えてくれるのは、学校で教師が教える勉強だけが子どもの学びや成長を促すものではないということです。例えば、物語中で様々な人（と妖怪）との出会いと別れを経験した水木少年に、のんのんばあは次のように語ります。 「人の心はなあ いろんな魂が 宿るけん 成長するんだよ」。 生物にも非生物にも固有の「魂」が宿っており、それらと触れ合い交わることで私たちは大きく強くなってゆく…ということですね。教えること、学ぶこと、想像力を持つことの根源的な意味を考える上でも、ぜひ読んでほしい一冊。				

羽澄直子 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	ソロモンの偽証	宮部みゆき 著	新潮社	S9/7296~8
各巻が700ページを越える本の厚みと重さに最初は圧倒されるかもしれませんが、読み始めると宮部ワールドにぐいぐい引き込まれます。物語はある中学校でひとりの男子生徒が命を落としたことから始まります。この痛ましい「事件」から広がる波紋のどこかに、読者の誰もが一度は経験したであろう場面がきっと出てきます。それは楽しい思い出ばかりではなく、心の傷をえぐるような辛い出来事かもしれません。しかし物語の中学生たちはそれぞれの立場から、恐怖や迷いと闘いながら自分たちが直面する問題に真剣に対峙します。何が本場で何が嘘なのか、当事者である彼らが解決法として選んだのは、前代未聞の「中学生による模擬裁判」でした。 2014年には文庫本（全6巻）が発売され、最終巻には新たな書き下ろしの「後日談」が載っています。裁判で切磋琢磨した中学生たちがどんな大人になったのか、ちょっと覗いてみて下さい。2015年には映画化もされました。こちらの鑑賞もお勧めです。				
2	村上海賊の娘	和田 竜 著	新潮社	S9/9565~6
戦国時代に瀬戸内海を支配していた村上水軍の姫、景（きょう）は華々しい戦にあこがれ海賊働きに明け暮れる破天荒な娘。ひょんなことから一向宗の門徒たちを守るうちに大阪湾での織田軍との死闘に巻き込まれます。この小説の醍醐味は壮大で臨場感溢れる戦闘場面ですが、スパイスとして注目したいのがひんぱんに「醜女」と描写される景の容姿です。身の丈6尺（約180センチ）の瘦身で長い手足、小顔で鼻は高く、目は大きく眉は両の目に迫り、口は大きく唇は分厚い。当時の日本の美女といえば小柄でふくよか、顔はのっぺり色白で筆で描いたようなすっとした目鼻立ちだったので、景の形相は鬼か化け物のように扱われ、さすがの荒くれ娘も内心穏やかではありません。ところが南蛮人（西洋人）を見慣れている泉州堺の男たちは景を絶世の美女とほめたたえます。初めてのモテ期に景はうかれますが、見た目の美醜の判断基準なんてこのように相対的で気まぐれなものなのです。 やがて戦がはらむ悲惨で冷酷な本質を知り、己の弱さと浅はかさを恥じた景は、ところや立場が変われば簡単にひっくりかえるのは美醜だけでなく、戦の正義、善悪などの価値観も同じだと痛感します。極限状態の戦闘で景を支えたのは「自分がどうありたいか」という己の信念でした。周囲の大人の男たちの打算や思惑をぶっ飛ばす景の信念の破壊力は豪快ですが痛々しさにもじませます。景をとりまく登場人物たちの生き生きとした個性もこの小説の魅力です。				

服部幹雄 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	コミュニケーションのレッスン	鴻上尚史 著	大和書房	S3/12390
「自分の気持ちをうまく伝えられない」「会話で自分だけ浮いているように感じる」「反論しようとするときんかになってしまう」などコミュニケーションで悩んでいませんか。一般にコミュニケーションは無意識のうちに行なわれているので、私たちは自分のコミュニケーションのどこに問題があるのかに気づかないものです。まずは自分のコミュニケーションスタイルを客観的に見る必要があります。「コミュニケーションは技術であるから練習すればするだけ上達する」との考えに基づいて、演出家の著者が「コミュニケーションがうまく行かない原因」の分析から、「聞く・話す・交渉する」方法に至るまで有益なアドバイスを与えてくれます。コミュニケーションのエキスパートたる教育者・保育者を目指している（でもちょっとコミュニケーションは苦手という）人にとって目からうろこの一冊となるでしょう。				
2	ことばの力学：応用言語学への招待	白井恭弘 著	岩波書店	080/133/1419
ことばは無意識のうちに私たちの思考や行動に影響を与えます。同じ状況を伝える場合でも言い方を変えれば印象はまったく異なってくることもよく体験することです。ことばで人を和ませたり楽しませることもできる反面、ちょっとした言葉で人は傷ついたりします。ことばは素晴らしいものであり、不思議なもの、こわいものでもあります。このようなことばの持つ力を応用言語学の最新の研究に基づいて科学的に分析したのが本書です。ことばとコミュニケーションに正面から向き合うのが教育者・保育者です。皆さんに一読をお勧めします。「標準語と方言」、「手話」、「言語障害」、「言語教育」などのテーマが扱われています。				

3	ことばの発達を謎を解く	今井むつみ著	筑摩書房	376.11/341
赤ちゃんは大人の支えなければ一人では何もできません。しかし、そんな赤ちゃんに大人がよってたかってもかなわないことがあります。それはことばの獲得です。子どもは周りの人たちの断片的な会話に接しながら、ほんの数年で母語（日本語圏で生まれた場合は日本語）の基本的骨格を身に付けてしまいます。例外的な場合を除き、獲得に失敗することはまずありません。これは、私たちが外国語の習得で苦労してきた経験を考えれば驚くべきことです。なぜそんな神業が可能なのでしょう。本書では観察や実験による実証によって、実に分かりやすくことばの獲得のメカニズムが紹介されています。特に三重苦を背負ったヘレン・ケラーが「ことばの役割」に気づくくだりを読むと、私たちが当たり前と感じていることばの素晴らしさ・不思議さが改めて実感できるでしょう。みなさんがだれもが体験した(でもだれもその過程を覚えていない)ことばの習得の世界を覗いてみませんか。ことばの発達を手助けする教育者・保育者を指す人にとって興味深い一冊になると思います。				
4	音とことばのふしぎな世界 ：メイド声から英語の達人まで	川原繁人著	岩波書店	408/38/244
ここに「サタカ」という名前の女の子と「ワマナ」という名前の女の子がいるとします。何となく「ワマナ」という名前はおっとりしていて、「サタカ」という名前はキリッとしている感じがしませんか。また「あ」と「い」という発音を比べると「あ」の方が大きく、「い」の方が小さい感じがしませんか？これは音から意味の連想がおきる現象で、言語学（音声学）では音象徴と呼ばれています。本書には、音象徴のほか、50音図の謎（なぜ「か→さ→た→な…や→ら→わ」という順に並んでいるのか？）、声紋分析（なぜ電話の会話では相手の声を間違えるのか？）、発音の習得（なぜ赤ちゃんはテレビで音は学ばないのか？なぜ外国語の発音はうまくできないようにならないのか？）、福祉音声学（言語障害や声を失った人への支援）など興味深い話が目白押しです。音楽・外国語教育・医学・心理学・法学に貢献する言語学（音声学）の威力、面白さ、醍醐味が味わえる一冊です。				
5	子どものうそ、大人の皮肉 ：ことばのオモテとウラがわかるには	松井智子著	岩波書店	810/273/4
3歳児の使う日本語は、使える単語も増え、文法も一通り使いこなせるようになり一見流暢に聞こえますが、うそをつくことができず、またうそをつかれていることを理解することもできません。うそを理解できるようになるのは4歳以降、皮肉が分かるようになるのは9歳ぐらいからと言われています。ことばの文字通りの意味でなく、その意図を理解する力（＝語用能力）が長い期間をかけて発達していく高度な能力であることがよくわかります。分かりやすい例を挙げれば、皆さんが教室でよく言う「先生、ちょっと寒いです」の意図は「エアコンの設定温度を上げてください」という依頼のはずです。本書では豊富なエピソードを交えながら子どもの語用能力の発達、高機能自閉症の人が抱える語用障害などが分かりやすく説明され、これを踏まえて、著者は「聞き手はどのように話し手の意図を理解するのか」というコミュニケーションの本質へと迫っていきます。コミュニケーションが苦手、会話上手になりたいと考えている人にとっては興味深い一冊になるでしょう。言語学（語用論）、言語習得論の入門書としても優れています。				
6	英語学習7つの誤解	大津由紀雄著	日本放送出版協会	9994
母語である日本語は無意識に身に付けてきたのに、なぜ英語学習ではこんなに苦労するのだろうか？これは皆さんだけでなく、多くの英語学習者が持つ疑問でしょう。これに対して巷にはさまざまな俗説が満ち溢れています。たとえば、(1)英語は外国語の中でも特に習得しやすい言語である、(2)英語学習は早く始めるほどよい、(3)留学すれば確実に英語力がつく、(4)英語はネイティブスピーカーから習うのが効果的、などです。この本は、最新の理論や経験に基づき、以上の4つを含む7つの俗説が誤解であることを明快に示し、効果的な英語学習のあり方を分かりやすく紹介しています。上級者にも英語学習に悩んでいる人にも有益な一冊となるでしょう。なお、ことばの本質について書かれた付録1、辞書・文法書が紹介されている付録2も付録ながら必読のコナーです。				
7	ちいさい言語学者の冒険 ：子どもに学ぶことばの秘密	広瀬友紀著	岩波書店	408/38/259
日本語を母語とする私たちは、普通に会話をするだけなら何の苦労もなく日本語を使いこなしています。しかし、その日本語を身に付けてきた過程はほとんど思い出すことはできません。また、日本語が母語であれば、ある表現が自然か不自然かは直感的に分かりますが、なぜそうなのかは説明できないのが普通です。たとえば「だれが来たんですか？」とは言えても「＊だれは来たんですか？」とは言えないことは直感的に分かりますが、なぜかと問われれば返事に窮してしまうはず。ここには確かにことばの仕組みが関わっていますが、それは頭の中にあって私たちは直接それを見ることはできず、説明もできないということです。しかし、日本語を習得する途上にある小さな子どもや日本語を学習している外国人のことばをじっくり観察すると、目には見えないことばの仕組みを知る手がかりを得ることができます。本書では「子どもの頭で起きていること（大人になった私たちの頭の中であつて起きていたこと）」、「直接見られない頭の中にあることばの仕組み」について実に分かりやすく説明されています。子どもの言語発達と向き合う皆さんにとって有益な一冊となるでしょう。外国語(英語)教育に対しても重要な示唆を与えてくれます。言語学・言語習得理論の面白さをぜひ本書で味わってください。				

8	新しい言語学 ：心理と社会から見る人間の学	滝浦真人編著	放送大学教育振興	801/2598
	レストランで店員さんから「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」などと聞かれることがあります。考えてみればおかしな表現ですね。今まさに注文しているのになぜ過去形の「た」を使うのでしょうか。結論を言ってしまうと、この「た」は丁寧さ（対人配慮）の「た」です。現在のことは現在形で過去のことは過去形で言うとう簡単に考えていた人も多いかと思いますが、ことばはそれほど単純なものではなく、人間の心や人を取り巻く社会と深く関わり、実に精密な仕組みを備えているものです。本書には、認知言語学・社会言語学・語用論・言語習得論などの分野が実に分かりやすい用例とともに紹介されています。子どもと「ことば」で向き合う教育者・保育者を目指す皆さんに一読をお勧めします。ことばの面白さ・不思議さが体験できるでしょう。			
9	その言い方が人を怒らせる ：ことばの危機管理術	加藤重広著	筑摩書房	S8/12393
	「謝ったつもりなのに人を怒らせてしまった」「きちんと敬語を使ったつもりなのに相手を不愉快にさせてしまう」このような経験はありませんか？コミュニケーション上の行き違いには感覚的に語られることが多いのですが、その背後には必ず言語学的な理由があります。機械的に「敬語」を勉強しただけではコミュニケーションを円滑に進めることはできません。周囲と円滑な人間関係を築き、教育者として子どもに伝わる「ほめる、叱る」が出来るようになるためにも「文脈とことば」を科学する新しい言語学の分野「語用論」が役に立ちます。コミュニケーションを科学する面白さを味わえる一冊です。			

堀祥子 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	「家庭料理」という戦場 ：暮らしはデザインできるか？	久保明教著	コトニ社	383/1806
	世間では「デザイン思考」なる言葉があふれ、ビジネス書のタイトルにもその言葉が付いたものもたくさん出版されています。そもそもデザイン思考とは何かを調べてみると、ユーザー視点で悩みや願望を共有し、モノやコトをニーズに合わせて定義し、創造したり、作り替えたりしたのちに仮説を立て、検証していく思考プロセスのことであるようです。 文化人類学者であるこの本の著者は、知人が「（研究活動をやめて）私、結婚したら毎日違う料理をつくるんだ！」との明るく希望に満ちた発言に興味を持ち、本当にそんなことが可能か否かを、著者自身が「家庭料理」というフィールドに赴き、作って、食べて、考える参与観察的考察していきます。 毎日、違う料理を作ることができればインスタのフォロワーは増えるに違いない！と今の時代に生きる皆さんは思うかもしれません。それを手伝うツールとして「クックパッド」や「クラシル」といったアプリもあり、可能なように思えます。しかし、そうやってつくられた料理は一体、誰のための料理であり、何のために作るのか考えてみてください。そもそも料理とは何なのか、果たしてデザイン思考をもって生み出される料理はあり得るのでしょうか？ 本来は「生きるために食べる」人間の営みが、現代社会でどのように取り扱われるべき行為なのか、本書の最後のページに書かれた「さて、あなたは明日なにを食べるのだろうか？」の一言に、はっとすると同時に深く考えさせられます。			
2	冒険者たち：ガンバと十五ひきの仲間	斎藤惇夫作/薮内正幸画	岩波書店	SJ9/913
	町ネズミのガンバは、住むところも食べるものも何不自由なく暮らしている。ある暗い雨の日の夜、仲間のマンブクにこう持ちかけられる。「ガンバ、海にいかないか。」 最初は乗り気でなかったガンバ。住み慣れた町を離れ、港で出会った船乗りネズミの力持ちのヨイショや思慮深く学に長けたガクシャ、何でもサイコロの目で決めるイカサマなど一癖ある仲間たちと一緒に船に乗り、無限に広がる海に感激し、たどり着いた島での冒険の旅。途中で加わった島ネズミたちなど多くの仲間と力を合わせ、リーダーとして恐ろしいイタチのノロイ一党に立ち向かう話である。 学校の図書館でこの本を見かけ、児童文学書としてはハードカバーでページ数も多い「すごい本」と思っていました。私が小学校の低学年の頃、絵本や比較的文字の大きな書籍などに物足りなくなり、ついにこの本を手取る時が来た！と思い、果敢に読み始めたことを思い出します。 小さなネズミたちの目から見れば、私たちの住む町も海も山も川も、すべて途方に暮れるような大きな宇宙です。そのなかで、必死に生きるために仲間と知恵を出し合い、助け合い、時に酒を酌み交わし、踊り、歌う姿は、現代を生きる私たちの姿と何の変りもありません。ひとりでは出来ないこともチームで動くことで解決できる。そんなことを私に教えてくれた一冊です。			

3	最貧困女子	鈴木大介 著	幻冬舎	S3/12796
	みなさんは年収いくらからが「リッチ」で、いくら以下が「プア」だと考えていますか？ この本の出版された2014年のデータでは、働く単身女性の3分の1が年収114万円未満であること、特に10代から20代女性に貧困が集中している事を挙げており、筆者はそれを引き合いにして、そもそも貧困とは何か？と、問いかけることから始まります。 ルポライターである著者は、人は低所得に加えて「三つの無縁」と「三つの障害」から貧困に陥る、と考察しています。保育や教育を学ぶみなさんにはピンときたかもしれませんが、「三つの無縁」とは「家族の無縁・地域の無縁・制度の無縁」であり、「三つの障害」とは「精神障害・発達障害・知的障害」であるとし、これらがオーバーラップして貧困に陥るのだとしています。 しかし、この本のタイトルにある「最貧困女子」とは、世の中のこうした分類・分析・論証や議論からはずれたところにいる女性、そして未成年の女子たちであるとしています。本文では「最貧困女子」の多くがセックスワーク（売春や性風俗産業）に埋没している様子を体当たりで取材し、彼女たちの貧困や抱えた苦しみや痛みを「可視化」しようと試みています。その内容には私たちの想像を絶するものもありますが、常に差別と無理解と糾弾の対象である彼女たちを救う手だてはどこにあるのかを考えながら取材を続ける筆者の姿に、みなさん自身の姿を重ね合わせながら読み進めてみてください。「社会的弱者」とはどんな人たちなのかを知り、「支援の在り方」を考えるきっかけにして欲しいと願っています。			
4	にげましよう :災害でのちをなくさないために	河田恵昭 著/河田恵昭, GK 京都編集	共同通信社	369.3/55
	この本の帯には「にげることは生きること」との見出しがあります。1分1秒が生死を分ける巨大災害、地震や噴火のような自然災害は、始まりから終息まで比較の見通しがつく「難」ですが、原子力発電所事故のようにおこった直後から長期にわたって危険が続く「難」もあります。 危険には種類があり、それらがどのように私たちを襲ってくるかがわかれば、どのように逃げればいいのか、そのタイミングはいつなのかも分かります。いのちをつなぐ避難のタイミングはまず学ぶことからなのだ、ということが、この本には分かりやすい絵と簡潔な文章で示されています。 新しく改定された保育所保育指針および認定こども園教育・保育要領では、災害への備えや子どもの安全面の確保について留意するよう記載されています。また、保護者や地域と連携して行うことも重要であると述べられています。 まずは、保育者になる皆さんが災害に対して正しい知識を持っているか、が問われます。まずは自分の身を守り、もちろん子どもの身を守るために、この本で学んでください。			
5	縁食論：孤食と共食のあいだ	藤原辰史 著	ミシマ社	383/1819
	この本のタイトル"縁食"は著者による造語です。国籍や性別、人種、年代、貧富、宗教からも解き放たれて、人々がただその場に居合わせ、「おいしいごはんを食べる」ことでゆるやかで居心地のよい「並存」する場を形成していくといった意味合いでしょうか。サブタイトルにある"孤食"や"共食"のあいだにあるとも位置付けています。 現代社会において、"食"という人間が生存していくために不可欠な行為には多くの問題が見え隠れしています。その影響を一番に受けるのは常に子どもたちです。「おいしいごはんを食べる」ことができる子どもたちはいつの時代も幸せです。著者は、誰もがそれを享受するための仕組みのデザインとして"縁食"を提案し、その可能性を本の中で解き明かしていきます。 2020年は、Covid-19の流行で"新しい生活様式"が提唱され、みなさんがこれまで当たり前のように過ごしてきた、気心知れない誰かと一緒にご飯を食べ、お茶を飲み語らいながら過ごす日常が"非日常"へと転換しました。それがいかに心に温かいひとときであったかを思い知らされた人もいれば、意味のないおしゃべりから解放されてほっとした人もいたかもしれません。この両者の関係を解きほぐすヒントも"縁食"には隠されているように思います。			

6	家をせおって歩く：かんぜん版	村上慧作	福音館書店	J70/5
7	家をせおって歩いた	村上慧著	夕書房	702/560
この絵本と書籍の2冊は、同じ作者の本です。作者は、1988年生まれ、東京育ちのアーティストであり、「移住を生活する」をテーマにして、発泡スチロールで自作した小さな家を背負い、日本国内や韓国、ヨーロッパを回り、各地の民家の絵を描きながら、そこの生活をつづったお話です。 作者は「僕らの生活は思った以上に閉じたものであること」として「僕たちは閉じ込められている」とし、定住するために必要なお金を得るために、「職場が定めた「ダンス」をいかに完璧に踊りこなすか」を求められる生活への疑問から、家を背負って歩き始めます。作者がその行為に至るのには、2011年の東日本大震災も一層その思いを強くした要素であることも伺えます。 『家をせおって歩く かんぜん版』は、「たくさんのふしぎ」シリーズの一冊ですので、子どもを読者として出版されています。作者自作の家や移動する先々の街の様子など、写真が沢山載っており、歩いた街の地図などのイラストも描かれているので、読者の子どもたちの目には、きっとその家は憧れの秘密基地のように見えると思います。そして、この本を眺めていると、人間には移動の自由があり、そして心の自由があることを強く思います。自分は人として生きているだろうか？すなわち、きちんと人権を行使しているだろうか？と改めて考えるきっかけになる一冊です。 もちろん、移動の自由や心の自由には、葛藤も付きものです。そちらは『家をせおって歩いた』の方に書かれています。作者の移動の記録が日記調で書かれています。その日に出会った人たちとのエピソードを中心に、作者の考えたことや心の内を吐き出し、整理するかのよう記され、身の回りの出来事は自分事として丁寧に引き受けている姿が印象的です。 作者は文中で、絵を描くときは一本の線を描くことに集中していること、繰り返し線を引くうちに大きな全体像が浮かび上がることが、家をせおって歩く行為と重なる、と述べています。何が起こるか分からない今の社会だからこそ、ますます「自由」の大切さを見直すことが必要かもしれませんし、先にも述べた「人として生きる」とことは、案外些細なこと積み重ねなのかもしれないことをこの本は教えてくれます。				
8	目の見えない白鳥さんとアートを見にいく	川内有緒著	集英社インターナショナル	S7/23736
全盲の白鳥健二さんが白杖をつき、どこへでもアートを見に行くエピソードが、同行する筆者の目線から明るい口調でつづられています。一枚の絵を前に「なにが見えるか教えてください」から始まる美術鑑賞。同行者の川内さんやその友人たちは、様々な言葉を使って、絵の解説を読んだだけでは伝わらない絵の中の要素を伝えますが、さて、会話はどんどんいろんな方向へ飛び散っていくようで・・・ そのやり取りから、絵を「みる」ことって、実はこんなに愉快で楽しく、障がいがあるから、ないから、普段からアートに触れていないから、そんな「些細な事」を気にする必要がないことを白鳥さんの行動が示してくれます。 美術館って難しそう、絵を見るってどういうこと？そんなことを思っている人におすすめです。旅先や近所でアートに出会うことがこんなに世界をひろげてくれるのか！と目からうろこが落ちますよ。				
9	編むことは力：ひび割れた世界のなかで、 私たちは生をつなぎ合わせる	ロレッタ・ナポリオーニ著 ；佐久間裕美子翻訳	岩波書店	準備中
2024年は空前の編み物ブームといわれています。10代～20代の女性を中心に100円均一ショップの毛糸コーナーで材料を買い求め、品薄状態が続いているそうです。 このブームの発端を調べていくと、どうやらK-POPアイドルが手作りし、自ら身につけていた“猫耳帽子”に影響を受けた人たちが多くいるようです。“猫耳帽子”は、一見すると袋状に編まれた簡単なものですが、頭にかぶると頭の形に添うことで、袋の角の部分がピンと立ち上がり、猫の耳に見えるというものです。パステル調の色味やふわふわの手触りの素材で、しかも憧れのアイドルが自分で手作りしたとあれば、それはマネしたくなるのも頷けます。つまり、現代での編み物は、女性の余暇の楽しみとの側面が強い印象です。 ところでこの猫耳帽子、もう少し起源を辿っていくと、アメリカの政治活動につながっていきます。皆さんもニュース等で良く知っている、あの大統領の掲げる思想や政策とかかわりがあるようです。そこで、そもそも何故、人は編み物をするのか？それを辿ると、社会のなかでの女性の立場が色濃く見えてくるというのが本書の内容です。 歴史上では、女性は弱者としてとらえられがちです。しかし、権力や政治に全く無抵抗であったわけではなく、「個人と政治、愛と経済を結びつけ、社会を幾度となく編みなおしてきたパワー」を持ち、力強く立ち上がった女性たちの姿があることが読み取れます。 私も編み物は大好きです。そんな女性たちの歴史の一端に感じることを感じながら編むとまた気持ちもピンとします。研究室や図書館には「いちばんよくわかる 新・棒針あみの基礎」「いちばんよくわかる 新・かぎ針あみの基礎」をはじめ編み物の本が何冊もありますので、お気に入りの糸と針を持って編みに来てください。				

堀部要子 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	にんげんだもの	相田みつを著	文化出版局	S7/20498
「つまづいたっていいじゃないか にんげんだもの」 この言葉にどれだけ多くの人が救われ、勇気づけられたことでしょう。 「にんげんだもの」では、詩人・書家である著者が、力強い書で、人間のありようや生き方、命の尊さを語りかけてきます。辛いことや悲しいことがあった時にこの本を開くと、だんだん元気が湧いてくる、そんな一冊です。 それにね、皆さんが教職に就いた時にきっと役立つことでしょう。実は私、「にんげんだもの」にある詩を、子どもたちに「贈る言葉」として届けていました。例えば、卒業アルバムのはなむけの言葉として、あるいは終業式や行事日の朝の黒板メッセージとしてです。「にんげんだもの」にある数々の詩は、子どもたちへの力強いエールになると思います。 ※ 現代仮名遣いとしてのひらがな表記は、「つまづく」です。しかしながら、「つまづく」という表記でも間違いではないことになっています。				

梈川知 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	18歳からの教養ゼミナール	家田愛子編著	北樹出版	377.15/88
「18歳からの教養」とは、大学で学んだ者であれば、最低限これくらいの教養・知識・モラルは身につけていてほしいという程度の雑学としての「大人の教養」のことです。将来、教職を目指す多くの皆さんに、専門教養の学びと並行して、社会人としての学びを深め、自分自身の「ものの見方・考え方」の幅を広げていってほしいと願っています。「人権問題」「ジェンダー問題」「子どもの人権の問題」「どう働くか、どう生きるかの問題」「人と人との繋がりに関する問題」「環境問題」「健康管理の問題」など、広くそしてある程度の深みをもって学ぶことができます。 さらに、第Ⅱ部として、「学びのスキル：絶対に必要な技」があります。ここでは、「レポート・レジュメ作成の心構え」「レポートの書き方」「大学図書館の利用法」などについても書かれています。 さあ、あなたも、「教養ゼミナール」に参加してみましょう。				
2	友だち幻想 ：人と人の「つながり」を考える	菅野仁著	筑摩書房	S3/16904
あなたには、きっと、素敵な友だちが何人もいることでしょう。相談したり、旅行したり、話し合ったり。時には、何も話さないで一緒にいることが、すごく楽しく意味あることのように感じたこともあるでしょう。そんな友だちとの在り様を、ちょっと振り返ってみませんか。 この本は、そのためのきっかけを教えてくださいます。 以下、この本に書かれてある推薦文を記しておきます。 『友だちは何よりも大切。でも、なぜこんなに友だちとの関係で傷つき、悩むのだろう。人と人との距離感覚をみがいて、上手にくつながらり築けるようになるための本。』				

村田あゆみ 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	長くつ下のピッピ	アストリッド・リンドグ レーン作/イングリッド・ ヴァン・ニイマン絵/菱木 晃子訳	岩波書店	J94/36/1
ピッピ・ナガクツシタは世界一強い9歳の女の子です。赤毛のおさげとそばかすがトレードマーク。ママは天国、船長さんのパパは嵐で行方知れず。「ママは天使でパパは南の国の王さま。こんなすてきな親をもっている子どもは、そうめったにいないのよ」と「ごたごた荘」と名付けられた古家で独り暮らしを謳歌しています。同居人はサルと馬。ピッピは大金持ちでとても力持ち。馬一頭をかるがる持ち上げます。学校にも行かないし、自由奔放なピッピは「子どもの一人暮らしはよくない」「学校に行かなくてはならない」と考える周囲の大人の常識をその奇抜な発想で振り回します。日頃たくさんの決まりごとにはがんじがらめになっている子どもたちの真逆の世界でピッピは生きています。 この作品は1945年にスウェーデンで出版されました。出版当時、あまりにも自由すぎるピッピの言動に大人たちは眉をひそめ、教育論争まで巻き起こりました。しかし「子どもは遊ぶこと、自由と安心が保証されていることが何よりも大事である」という作者リンドグレーンの信念は80年近くたった現在も古びることはありません。 はちゃめちゃで楽しいピッピの物語の根底にしっかりした教育観や子ども観が存在しています。教育や保育の分野で活躍したい皆さんにはぜひ読んでほしい児童文学です。				

2	きみはいい子	中脇初枝著	ポプラ社	S9/7603
	本書は虐待を題材とした連作短編集です。「サンタさんの来ない家」「べっぴんさん」「うそつき」「こんにちは、さようなら」「うばすて山」の5編が収められています。時代は現代、舞台は郊外の新興住宅地。大学新卒の小学校教員、公園で子どもを遊ばせるママたち、地域で自営業を営む父親、独り暮らしの老女、認知症の母親を預かることになった働く女性が登場します。学級崩壊や虐待児童、虐待の連鎖や発達障がい、ネグレクト、介護の問を軸にそれぞれの物語は展開します。 著者は「(虐待を)された側」よりも「した側」に視点をおいて「した側」の人のほうが深く重いものを抱えているのではないかと問いかけます。特別な悪人が虐待をする訳ではない。誰もが何かのきっかけで起こしてしまうかもしれないのです。核家族だ、大家族だ、地域のつながりが希薄だ、濃密だ、が虐待の背景や環境ではないと著者は考えています。 虐待をなくすためにはどうすればいいのでしょうか。「その人が認められていることを実感しながら暮らせる」ことが最も重要です。子どももそしてその親たちも。教育や保育の現場で働くことを考えているみなさんにとって重い問題をつきつけているそんな1冊です。			
3	うそつきの天才	ウルフ・スタルク著/菱木晃子訳/はたこうしろう絵	小峰書店	SJ9/21481
	教育者、保育者をめざしている皆さん、「うそをつくのはだめ」ですね。 スウェーデンを代表する児童文学作家ウルフ・スタルクのこの作品には「うそつきの天才」「シェイクvs.バナナ・スプリット」の2編の「うそ」の物語が収められています。 第1話は、うそがバレた「ぼく」が叱られるのが怖くて家を出てしまう話です。うそはうそを招き、うそを積み重ねます。けれどもパパとママは怒らずに「したことをそのとおり、話せばいい。そうすれば、すべてうまくいく。」と抱きしめてくれます。でも翌日、「ぼく」は家出話を盛って盛って盛って語り、クラスのヒーローになるのです。 第2話。「ぼく」は作文でクラスメイトと競い合います。先生は「きみの身近に起きたことをそのまま書けばいい。話をつくる必要はない」と「ぼく」の作文を褒めてくれます。実は「ぼく」の作文は全くの作り話だったのですが・・・ 主人公「ぼく」は作者の子ども時代を想起させます。物語の舞台は60年以上も昔のスウェーデンですが、そこで学校に行き、遊び、悪戯をし、友だちと過ごす姿が生き生きとユーモラスに描かれており、思春期の子どもはいつの時代もどこの世界でも変わらないを感じさせます。 うそをつくのはだめ。なのに人はなぜうそをつくのでしょう。うそと空想の境界はどこにあるの？ テンポよく進んでいく話に引き込まれながら、読後いろいろ考えてみたくなる1冊です。			

吉川直志 先生

	書名	著者名	出版者名	請求記号
	先生からのおすすめコメント			
1	本日は、お日柄もよく	原田マハ著	徳間書店	S9/9553
	スピーチライターを目指す一人の女性の物語。引き込まれて一気に読める本です。そんな中に、言葉の魅力、心をゆさぶるスピーチ、成長していく女性の姿が詰まっています。この本で、相手に心を伝える力とは何かを感じることができました。後半部では、選挙スピーチライターとして奮闘する話から、演説の裏側を知ることにも出来ます。心に響く言葉のつまった一冊、自分の目指す道をまっすぐ進む女性を描いた一冊、読み終えた後、私も頑張ろうと思える一冊、葵大の学生に勧める一冊です。			
2	生きるばくら	原田マハ著	徳間書店	S9/12399
	心が温くなる本です。きっと、いろいろ自分のことと比べながら読み進めるはずですが、自分の心の温かさがどこにあるのかを知りたい方は、是非、読んで下さい。読むと、おにぎりが食べたくなりますよ。それはどんなおにぎりでしょうか。 これは、いじめから引きこもりになってしまった主人公「人生」くんが、携帯電話の必要ない田舎に行って、いろんな人々に支えられ、助けられ、背中を押されながら、コメ作りを通して自分が生きていることに気付いていくお話です。登場人物が成長する瞬間、気付いていく瞬間が素直に伝わってきます。これから社会に出る皆さんにとって大事なものが見つかるかもしれません。 原田マハさんは私の大好きな作家です。どの作品も読みやすく、読めば心が元気になる作品が多いです。心折れても立ち直り、そして再び頑張れる。その力はどこから来るものなのか。それを考えるきっかけと出会えると思います。この「生きるばくら」もそんな一冊です。			

3	暗幕のゲルニカ	原田マハ著	新潮社	S9/I3900
	原田マハさんは私の大好きな作家です。どの作品も読みやすく、読めば心が元気になる作品が多いです。心折れても立ち直り、そして再び頑張れる。その力はどこから来るものなのか。それを考えるきっかけと出会えるはすです。この本でも、最後までやりとげようとする強い意思を持った女性が登場します。 教科書にも取り上げられる有名なピカソによる絵画「ゲルニカ」。一度は見たことがあるはずです。第二次世界大戦直前に描かれたゲルニカは反戦のシンボルとなっています。ゲルニカに込められたピカソの平和への思いとはどんなものだったのでしょうか。この物語は、9.11、そしてその後のイラク空爆前に国連安保理でパウエル長官が会見する時、その場にあった反戦のシンボル「ゲルニカ」に暗幕がかけられて隠されていたという事実から始まります。ピカソの思い、ゲルニカを戦火から救い出した人々の思い、9.11後の世界にその思いをもう一度伝えたいという現代の一人の女性の思いが強く伝わってきます。 この本を読むと、ゲルニカを見てみたいときっと思います。また、ワクワクするストーリー展開で、物語に引き込まれていきます。そして、自分も頑張ろうという気持ちが持てるでしょう。			
4	スイート・ホーム	原田マハ著	ポプラ社	S9/I5469
	今年、紹介したいと思った本も、原田マハさんの本でした。これは単純に「幸せ」がいっぱい詰まった本です。いつかあなたもパートナーと出会います。その出会いは特別なものと感じるでしょう。それにはきっと理由があります。それは何だと思いますか？幸せな気持ちは伝染します。気持ちを暖かく応援してくれる人や街や家があり、家族があるからこそ、幸せな出会いがあります。そんなことを感じさせてくれる本です。これからやってくるあなたの特別な出会いを見逃さないために、そして幸せは必ず来ることが信じられるために、一度、読んでみると良い本です。 この本はとても読みやすく、読書が苦手な人でも幸せな気持ちになって読み終えることができます。そして、心が温まるおいしいスイーツを誰かと食べたいくなります。			
5	キネマの神様	原田マハ著	文藝春秋	S9/I9076
	まあ、読んでみて下さい。読み終わったら、きっと、読んでよかったと思いますよ。崖っぶちの父娘の復活物語と思っていたら、人と人とのつながりが奇跡を巻き起こす話です。この本には映画がたくさん出てきます。皆さんは知らない映画も出てきますが、気にせず読めます。映画は映画館で見たいと思うかもしれませんが。この本は私のお気に入りです。かなり前に読んだ本ですが、映画化されるということで、推薦することにしました。 最後の展開はすごいですよ。奇跡は、人の思いやつながりから生まれます。皆さんにもきっと奇跡はこれからやって来ます。			

学科関連おすすめブックリスト

Hosam Elmetaher 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
闘志!英検準2級読解練習	Hosam Elmetaher	Amazon
	準備中	
この本は、英検準2級の試験準備をサポートするために設計されています。読解力と語彙力を向上させるための豊富なリソースを提供し、試験に必要なスキルを効果的に身につけることができます。		
英検3級過去6回全問題集		旺文社
	準備中	
★旺文社は英検書売上No.1！ ※日販調べ（2024年1月-12月の英検書ジャンル売上部数より） 英検対策は、刊行52年目を迎えるロングセラー『全問題集』シリーズで！		
英検準2級過去6回全問題集		旺文社
	準備中	
★旺文社は英検書売上No.1！ ※日販調べ（2024年1月-12月の英検書ジャンル売上部数より） 英検対策は、刊行52年目を迎えるロングセラー『全問題集』シリーズで！		

大志民彩加 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
船を編む	三浦しをん著	光文社
	913.6/657	
玄武書房に勤める馬締光也。営業部では変人として持て余されていたが、人とは違う視点で言葉を捉える馬締は、辞書編集部に迎えらる。新しい辞書『大渡海』を編む仲間として。定年間近のベテラン編集者、日本語研究に人生を捧げる老学者、徐々に辞書に愛情を持ち始めるチャラ男、そして出会った運命の女性。個性的な面々の中で、馬締は辞書の世界に没頭する。言葉という絆を得て、彼らの人生が優しく編み上げられていく。しかし、問題が山積みの辞書編集部。果たして『大渡海』は完成するのか。		
言箱と言珠のひみつ	久米絵美里作；もとやま さこ絵	朝日学生新聞社
	準備中	
小学5年生の詠子のおばあちゃんのお仕事は、町の小さな雑貨屋さん。...と思いきや、本業は、「言葉を口にする勇氣」と「言葉を口にしない勇氣」を提供するお店、言葉屋だった!言葉屋の成り立ちと使命を知ることとなった詠子は、その夏、言珠職人の見習いとして、おばあちゃんの工房に入門する。朝日学生新聞社児童文学賞第5回受賞作。		
翻訳できない世界のことは	エラ・フランシス・サン ダース著イラスト；前田ま ゆみ訳	創元社
	804/81	
FORELSKET フォレルスケット/ノルウェー語—語れないほど幸福な恋におちている。COMMUOVERE コンムオーベレ/イタリア語—涙ぐむような物語にふれたとき、感動して胸が熱くなる。JAYUS ジャユス/インドネシア語—逆に笑うしかないくらい、じつは笑えないひどいジョーク。IKUTSUARPOK イクトゥアルポク/イヌイット語—だれか来ているのではないかと期待して、何度も何度も外に出て見てみる。...他の国のことはそのニュアンスをうまく表現できない「翻訳できないことは」たち。		

日本語の謎を解く：最新言語学Q&A	橋本陽介著	新潮社
	080/141/326	
素朴な疑問に、最新の言語学で答えます。「は」と「が」はどう違うのか。「氷」は「こおり」なのか、なぜ「道路」は「どろろ」なのか。どうして「雰囲気」を「ふいんき」と言ってしまうのか。「うれしいです」と言えても、「うれしいだ」と言えないのはなぜか。「全然、大丈夫」という表現は間違いか。日本語の起源から、音声・語彙・文法・表現まで、73の意外な事実。		
日本語の秘密	川原繁人著	講談社
	準備中	
気鋭の言語学者が「ことばの達人」に出会ったら――。思わず誰かに話したくなる、日本語の魅力とことばの楽しみ方が満載の対談集!		
世にもあいまいなことばの秘密	川添愛著	筑摩書房
	準備中	
「冷房上げてください」「大丈夫です」。言葉には、読み方次第で意味が変わるものが多々あり、そのせいですれ違ったり、争ったりすることがある。曖昧さの特徴を知り、言葉の不思議に迫ろう。		
国語を教えるときに役立つ基礎知識88	山田敏弘著	くろしお出版
	375.8/291	
日々刻々と変化する国語教育を取り巻く環境についていけるか。88のQ&Aで、教員免許状取得後の知識の更新度をチェック。『学習指導要領』改訂版、日本語にまつわる研究成果もふまえ、現場で教えるための最新知識を身につけよう。		
日本語・国語の話題ネタ：実は知りたかった日本語のあれこれ	森山卓郎編	ひつじ書房
	810/270	
「蔵人」はなぜ「くろうど」と読む? 「ピアノをひく」と「風邪をひく」は関係がある? ちょっとした小話が国語(日本語)の学びを楽しくする。文字表記、語彙、文法、方言、国語の教育など様々なトピック群に分け、「授業で使える小ネタ」、「実はちょっぴり聞きたかった疑問点」、「どうでもいいけどやっぱり知りたい言葉の豆知識」などを楽しく読める。国語に関わる全ての先生、日本語の先生、大学生の参考図書などに役立つ一冊。		
ルポ誰が国語力を殺すのか	石井光太著	文藝春秋
	S3/23250	
『ごんぎつね』の読めない小学生、反省文の書けない高校生..... 子供たちの言葉を奪う社会の病理と国語力再生の最前線を描く渾身のルポ!		
使える!「国語」の考え方	橋本陽介著	筑摩書房
	準備中	
国語の授業はとかく批判されがちである。つまらない、役に立たない、小説を読む意味はない、といった声が聞こえてくる。そのため、論理力をつけるための内容に変えるべきだという意見も強まっている。でも、それで本当に国語の力はつくのだろうか?そこで、文学、論理といった枠にとらわれなくて、読む力・書く力を身につけるための新しい考え方を提案する。これまでなかった国語の授業がここにお披露目される。		
人はことばをどう学ぶか：国語教師のための言語科学入門	菅井三実著	くろしお出版
	375.8/307	
認知能力との関係で言語を分析する認知言語学の観点から、関連諸科学の知見を積極的に提供しつつ、言語研究と国語教育の連携を図り、国語教育が思考の教育になることの理論的基盤と実践例を学術的論拠に基づいて分かりやすく論じる。		

社会につながる国語教室：文字通りでない意味を 読む力	菅井三実著	開拓社
	375.85/78	
人が生きていく中で、直接的で明示的な〈文字通りの意味〉だけでなく、間接的で非明示的な〈文字通りでない意味〉を読まなければならないときがあります。〈文字通りでない意味〉という観点からみると、物語における登場人物の心情理解も単に学校の中での国語の学習で終わるものではなく、現実社会での対人コミュニケーションにおける他者理解に繋がっていることが見えてくるはずです。		
ことばの発達の謎を解く	今井むつみ著	筑摩書房
	376.11/341	
単語も文法も知らない赤ちゃんが、なぜ母語を使いこなせるようになるのか。ことばの意味とは何か、思考の道具としてどのように身につけていくのか。子どもを対象にした実験の結果をひもとき、発達心理学・認知科学の視点から考えていく。		
日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学	糸山洋介著	研究社
	801/2500	
身近な比喻と類義表現を例に使って認知言語学が学べるわかりやすい入門書。		
認知言語学入門	糸山洋介著	研究社
	801/2617	
予備知識なしで認知言語学の基本がわかる		

小椋郁夫 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
<u>どうぶつのあしがたずかん</u>	加藤由子 文 ヒサクニヒコ 絵	岩波書店
	J48/13	
小椋先生からの推薦文		
どの本もいろいろな動物のからだの部分の同じ大きさの写真が掲載されています。「あしがたずかん」には、いろいろな動物の足形が掲載されていますし、「〇〇動物園」では、哺乳類や爬虫類、「〇〇水族館」では魚類のほかにも、クラゲやイカの仲間、水の中で生活する哺乳類などが紹介されている。また、写真だけでなく、体の特徴や生息場所、生活の様子などについて、わかりやすく、詳しく説明されています。 貴女は、この本に出会って、すべてのページを見て、読んで、楽しんで、驚いて・・・どのようなことを感じましたか。そして、もし、あなたに「読み聞かせ」の機会があり、これらの本について紹介するときには、どのような工夫をしますか。「自分なら、子どもたちにこんなことを工夫して紹介してみよう。」と本の開き方や話し方、各ページの開き方、動物たちの特徴的な部分の説明など、子どもたちにわかりやすい言葉で考えてみましょう。		
<u>ほんとの大きさ動物園</u>	福田豊文 写真；柏原晃夫 絵； 高岡昌江 文	学習研究社
	J48/30	
ズバリ！ 動物の顔を、実物大の写真で見せる大迫力の図鑑。実際の大きさがわかるだけでなく、毛のはえ方や筋肉のつき方など、動物の質感まで手にとるように感じるができます。まるで動物が目の前にいるような感覚が味わえる、新しいタイプの図鑑です。		

本物の大きさ絵本 原寸大 すいぞく館	さかなクン 作 松沢陽士 写真	小学館
	J48/31	
世界最大のカニ、人気者のラッコ、そのほかにも、マンボウ、シャチ、クラゲ、ウミガメなどなど。海のなかまたちが本物の大きさで見られます。		
ほんのおおきさ水族館	小宮輝之 監修	学習研究社
	J48/32	
イルカやラッコなどおなじみの哺乳類、人気の魚の顔やからだを実物大の写真で見せます。皮膚やうろこの質感までリアルに感じられる、今までになかった水の生き物の本です。		
もっと！ほんのおおきさ動物園	松橋利光 写真；柏原晃夫 絵；高岡昌江 文	学習研究社
	J48/33	
大好評『ほんのおおきさ動物園』の第2弾です。読者からリクエストの多かったライオンやカバ、ホッキョクグマが実物大で登場。バラエティにとんだ動物たちの、いきいきした表情を紹介します。さらにパワーアップした衝撃のワイドページもお楽しみに。		
本物の大きさ絵本 原寸大 どうぶつ館	前川貴行 写真	小学館
	J48/34	
この本では、さまざまな動物の写真を、本物の大きさにしてのせています。毛の一本一本や、皮ふの質感、ひとみのかげやきなど、細かなところも、よく見えます。		

門松愛 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
生きがいについて	神谷美恵子 著	みすず書房
	113/52	
「いったい私たちの毎日の生活を生きるかあるように感じさせているものは何であろうか。ひとたび生きがいをうしなったら、どんなふうにしてまた新しい生きがいを見いだすのだろうか」神谷美恵子はつねに苦しむひと、悲しむひとのそばにあらうとした。本書は、ひとが生きていくことへの深いとおしみと、たゆみない思索に支えられた、まさに生きた思想の結晶である。1966年の初版以来、多くのひとを慰め力づけてきた永遠の名著に執筆当時の日記を付して贈る。		
おさなごころを科学する：進化する乳幼児観	森口佑介 著	新曜社
	371.44/200	
心理学は、乳幼児をどのように研究し、どのような存在として見てきたか。今生まれつつある、新しい乳幼児観とは？乳幼児研究の展開をわかりやすく整理して解説しつつ最先端の知見も紹介。乳幼児心理学の入門書でありながら、一読、乳幼児への見方を一変させる書！		
幼児教育の源流	荘司雅子 編	明治図書出版
	376.1/140/6	
コメニウス、フレーベルからマカレンコにいたる13人の代表的な幼児教育家の理論と実践をあとづけ、現在受けつぐべき思想と方法をやさしく叙述。		
乳幼児教育における遊び：研究動向と実践への提言	O.N.サラチョ、B.スポデック共編著 白川蓉子、他 共訳	培風館
	376.11/233	
「幼児は遊びをとおして学ぶ」「乳幼児の遊び活動が心身の発達の源である」という考えのもと、乳幼児教育学研究における「遊び」に焦点をあて、幼児教育学、認知心理学、発達心理学等の各分野の立場から、乳幼児を含む子どもの現代的な問題、およびその新しい方向性について解説し、乳幼児教育実践への示唆を紹介した書。		

発達がわかれば子どもが見える：0歳から就学までの目からウロコの保育実践	乳幼児保育研究会 編著	ぎょうせい
	376.11/331	
未就学児の各発達段階について、「全身発達」「生理的機能」「運動発達」などの『発達論的な視点』と、「育児の援助(健康、生活リズム等)」「あそびの援助(運動、言葉、複合等)」などの『保育の視点』から、そのポイントを解説!! イラストやコラムを豊富に使い、理解しやすい内容になっています。保育士のみならず、幼稚園教諭のみなさんについても、保育に関する実践的な内容の本書は、オススメです。		
発展途上国の保育と国際協力	浜野隆, 三輪千明 著	東信堂
	376.12/51	
世界では発展途上国を中心に1日22,000人以上の子どもが5歳前に死亡している。死を免れた場合でも、劣悪な発育環境は子どもの成長やその後の人生にも重大な負の影響を及ぼす。こうした事実を踏まえ、本書は発展途上国の保育と効果的な国際協力のあり方をEarly Childhood Development(ECD)の視点から論考する。		
さむがりやのサンタ	レイモンド・ブリッグズ さく・え すがはらひろくに やく	福音館書店
	58	
狭い煙突の通路に文句をいいながら、プレゼントを配達して歩くサンタのおじいさん。ほんとはちょっと気むずかしやで寒がりなんです。連続のコマ割りの絵は、大人も十分楽しめます。		
どんなにきみが好きだかあててごらん	サム・マクブラットニイぶん; アニタ・ジェ ラームえ; 小川仁央やく	評論社
	E/2896	
チビウサギとデカウサギは大の仲良し。「ぼくはきみのことこーんなに好きだよ」二匹は腕を広げたり、背伸びしたり、飛び上がったたり、どんなに相手を好きか言い合います。絵もお話の進行も終わり方もほのぼのした本。		

榊原剛 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田寿美男 著	岩波書店 (岩波現代文庫)
	S3/9552	
人目を気にしない、自閉症のたかし君。人目を気にし、指のない右手を手袋でかくし続けたみつこさん。障害をありのままに受け入れ、誰もがのびのびと生きられる社会をつくるために、障害を一つの〈生きるかたち〉と考え、一つの〈文化〉としてとらえることはできないか。多様な文化が共生できる社会を、ともに目指そうと呼びかける。		

佐々木基裕 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
教育の職業的意義	本田由紀 著	筑摩書房 (ちくま新書)
	S3/12394	
一九九〇年代に、若者の仕事は大きく変貌した。非正規社員の増加、不安定な雇用、劣悪な賃金…。なぜ若年労働者ばかりが、過酷な就労環境に甘んじなければならないのか。それは、戦後日本において「教育の職業的意義」が軽視され、学校で職業能力を形成する機会が失われてきたことと密接な関係がある。本書では、教育学、社会学、運動論のさまざまな議論を整理しながら、“適応”と“抵抗”の両面を備えた「教育の職業的意義」をさぐっていく。「柔軟な専門性」という原理によって、遮断された教育と社会ともういちど架橋し、教育という一隅から日本社会の再編に取り組む。		

教養主義の没落	竹内洋 著	中央公論社 (中公新書)
	S3/12410	
一九七〇年前後まで、教養主義はキャンパスの規範文化であった。それは、そのまま社会人になったあとまで、常識としてゆきわたっていた。人格形成や社会改良のための読書による教養主義は、なぜ学生たちを魅了したのだろうか。本書は、大正時代の旧制高校を発祥地として、その後の半世紀間、日本の大学に君臨した教養主義と教養主義者の輝ける実態と、その後の没落過程に光を当てる試みである。		

渋谷寿 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
愛するということ	エーリッヒ・フロム 著 鈴木晶 訳	紀伊国屋書店
	141/640	
人間砂漠といわれる現代にあり、<愛>こそが、われわれに最も貴重なオアシスだとして、その理論と実践の習得をすすめた本書は、フロムの代表作として、世界的ベストセラーの一つである。		
フィンランドに学ぶ教育と学力	庄井良信, 中嶋博 編著	明石書店
	370.4/303/3	
OECDの国際学力調査で好成績をおさめるフィンランドの教育の今と歴史を知る決定版。教育の機会と結果の平等の保障を貫く教育思想とシステムの真髄とは何か？ ルポ・エッセイ・研究論文といった多彩な寄稿から格差をつくらない社会に迫る。		
私のまわりは美しい：14歳までのシュタイナー教育	松井るり子 著	学陽書房
	371.5/118	
教科の壁なく、網羅的に行われているシュタイナー教育を、日本の教科ごとに具体的に紹介。前著「七歳までは夢の中」に続き、アメリカで行われている8年生、14歳までの授業の例をわかりやすく紹介する。		
教育の基礎となる一般人間学	ルドルフ・シュタイナー 著 新田義之 訳	イザラ書房
	371/886	
人間の営みのどの分野にも通用する、基本的な人間理解を目指した学としての人間学のテキスト。人智学のバイブル的な基本文献。人智学出版社1980年刊「教育の基礎としての一般人間学」の改題改訂新版。		
子どもと楽しむシュタイナー教育の手作りおもちゃ	クリスティーン・ファインズ・クリントン 他 著	学陽書房
	376.157/445	
子どもは素朴なおもちゃを中心にして、すばらしい想像の世界を作り上げることができる。それが親子で作ったものならなおさら。子どもが夢中になるおもちゃ67点を選び、ユーモアたっぷりの作り方・遊び方を解説。		
脳と創造性：「この私」というクオリアへ	茂木健一郎 著	PHP研究所
	491/2917	
クオリアは、あくまでも私秘的な(プライベートな)体験である。その私秘的な体験が、逆説的ではあるが、個別を超えた普遍性を支える。確かに、自分の見ている赤と、他人の見ている赤が同じであるということを確認する術はない。しかし、意識の中で感じるクオリアこそが、私たちの生み出す様々な科学、文学、芸術上の作品の普遍性を担保するのである。その普遍性への根拠のない信仰を抜きにして、創造の苦しみに耐えることなどできない。		
0歳から7歳までのシュタイナー教育	堀内節子 監修・著	学習研究社
	絶版のため図書館入手不可	
生まれてから小学校にあがるまで、子どもの何を育て、親はどうかかわればよいのか…。幼稚園の実践を通して語る0歳からのシュタイナー教育。		

島澤ゆい 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
カウンセリングの実際問題	河合隼雄著	誠信書房
	146/688	
カウンセラーとして著名な著者が、カウンセリングの実際場面を通して、そこに起るさまざまな問題点を摘出し解決してゆく		
こころを軽くする言葉：対人関係の不安を消す	アルフレッド・アドラー著；長谷川早苗訳；星野響構成	興陽館
	準備中	
他人の目なんて気にするな！「承認欲求」を捨てれば、自由になれる！『嫌われる勇気』の心理学者、アルフレッド・アドラーの名言集。		
子育てで大切なこと：「お母さん」「お父さん」「教師」の役割とはなにか	アルフレッド・アドラー著；坂東智子訳	興陽館
	準備中	
お母さん、お父さん、先生との関係がその子の人生に大きな影響を与える。 「子育て・教育」に役立つアドラーの教え 赤ちゃんや子供にはどう接すればよいのか？ 子育てを間違えないために教育・子育てについてアドラー本人が書いた本。 赤ちゃんとも母親の関係とは？教育とは？子供を育てるうえで大切なことはなにか。 心理学者アドラー博士が書いた人生についての考察、その集大成。		

杉原央樹 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
変貌する教育学	矢野智司 他 編	世織書房
	371/835	
二〇〇二年度より新学習指導要領が実施される。この要領がめざす教育改革のねらいは「ゆとり」と「生きる力」の教育であり、それを実現するものが「総合的な学習の時間」である。これらをつなぐ論理は「子ども中心主義」であるが、この教育方針は本当に子どもたちのためになり、学校を再生するに足るものなのか？また、受験や詰め込み教育は本当に罪悪なのか？さまざまなデータを検証し、教育と日本社会のゆくえを見据えて緊急提言する。		
キーワード現代の教育学	田中智志，今井康雄 編	東京大学出版会
	371/864	
混乱する教育の理念と価値観、繰り返される「改革」、変化する社会と子どもたち……、この現実をどのように言葉で語り、実践を切り拓くことができるか。「メディア」「格差」から、「人格」「学力」のとらえなおしまで、現代の教育学のキーワードを身につけるテキスト。		
勉強するのは何のため？：僕らの「答え」のつくり方	苫野一徳 著	日本評論社
	371.1/139	
「なんで勉強しなきゃいけないの？」——誰もが一度は考える、でも誰も答えられないこの疑問に、哲学を使って「納得解」を出す！		
教育の歴史と思想	石村華代，軽部勝一郎 編著	ミネルヴァ書房
	371.2/123	
教員採用試験頻出の人物の思想と実践をわかりやすく解説。深く学べるよう時代背景、同時代人や関連ある思想家・実践家をあわせて紹介。巻末に便利な年表と関連資料・法規を掲載。		

教育改革の幻想	荻谷剛彦 著	筑摩書房 (ちくま新書)
	373.1/64	
「限界への教育学に向けて」「生活改革のひび割れた構成物としての新教育」「教育の公共性と自律性の再構築へ」など国内・海外の10編の論文を通して、変貌する教育学を探究する。		
問い続ける教師：教育の哲学×教師の哲学	多賀一郎，苫野一徳 著	学事出版
	374.3/220	
多賀一郎という教師の本質を自ら問い、哲学者苫野一徳が読み解く(哲学する)ことから、アクティブ・ラーナーとしての教師像、これからの教師像というものを模索。現場の教師と教育哲学者が問う、実践知と哲学知の融合。		
学校と社会	デューイ 著，宮原誠一 訳	岩波書店 (岩波文庫)
	S3/4685	
学校とは暗記と試験にあけくれる受動的な学習の場ではなく、子供たちが自発的な社会生活を営む「小社会」でなければならない。このような観点からデューイ(1859-1952)は、伝統的な学校教育に大胆な批判を加えた。自ら創始したシカゴ大学付属小学校での体験から生まれた本書が、戦後わが国の教育改革に及ぼした影響ははかり知れない。		

高橋哲也 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
ルドルフとイッパイアッテナ	斉藤洋 作 杉浦範茂 絵	講談社
	J91/222/1	
猫と人間、それぞれの愛と友情の物語。ひょんなことから、長距離トラックで東京にきてしまった黒猫ルドルフ。土地のボス猫と出会い、このイッパイアッテナとの愉快的なノラ猫生活がはじまった……。		
ルドルフともだちひとりだち	斉藤洋 作 杉浦範茂 絵	講談社
	J91/222/2	
のらねこと飼いねこの生き方のちがいについて、人間や友だちについて、いちにんまえになるということについて――。なやみながらも、やがて自分なりの答えを見つけだしていく黒ねこルドルフ。ルドルフとそのなかまたちの、笑いと涙でいっぱいの1冊。		
ルドルフといくねこくるねこ	斉藤洋 作 杉浦範茂 絵	講談社
	J91/222/3	
ある日、川のおこうからドラゴン兄弟がやってきた。いったいなにをしに？最近、ブッチーのようすもなんだかおかしい。そして、ルドルフにも思いがけないできごとが――。変わらないようであり、変わっていく世界のなか、それぞれが自分自身を見つめなおしはじめる、ルドルフとなかまたちの新しい物語。		
ルドルフとスノーホワイト	斉藤洋 作 杉浦範茂 絵	講談社
	J91/222/4	
ルドルフの仲間、ブッチーに子ねこがうまれた。そのうちの1匹、チェリーが行方不明に。チェリーは、かつてトラックに乗って東京にやってきた、ルドルフにあこがれていた。ということは、ひょっとして……？ ルドルフは、隣の隣の町をとりしきるめすのボスねこ、スノーホワイトといっしょに、チェリーの捜索に出かける――。		

大人に質問!「大人ってどのくらい大変なんですか?」	みうらじゅん+児童館の子どもたち 著	飛鳥新社
	S1/17131	
全国の児童館の子どもたちが、大人に素朴な疑問をぶつけます。大人代表はみうらじゅんさん。遠慮会釈なく真実を衝いてくる子どもたちの質問に、最初から最後まで真摯に応えます。そのやりとりにドキッとしたり、ほっこりしたり。おかしくてたまる本なのです。		
しくじり動物大集合	新宅広二 著 イシダコウ 絵	永岡書店
	S4/13899	
動物には、思わず笑ってしまう、奇妙なクセや、意味のない能力、ヘンテコな習慣がある。そんな一見、「しくじって」見える動物の生態をイラストで紹介。		
わたしたちはぜったい負けない：ふたりはプリキュア名言集	講談社 編	講談社
	S7/17132	
プリキュアシリーズは「女の子だって、暴れたい」をコンセプトに、おしゃれな戦闘服で肉弾戦を繰り広げる女兒向けアクションアニメとして絶対的な人気を誇っています。15年経って元プリキュア少女たちが社会にもまれている現在、当時のセリフに触れることで、彼女たちにエールを贈る名言集です。セリフと、当時のアニメ画像や、大人が好む線画タッチで、大人ファンが繰り返しめくる構成です。		
絵本 いのちをいただく みいちゃんがお肉になる 且	内田美智子 著 魚戸おさむとゆかいなななたち 絵	講談社
	SE/13901	
10万部突破の感動作が手に取りやすい絵本に！坂本さんが経験した“事実”が、いのちをいただくことの意味を、問いかけてきます。		

坪井眞里子 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
イラストでみる合唱指導法：授業に生かせる指導 マニュアル110	竹内秀男 著	教育出版
	375.76/119	
「発声法と合唱指導法」の具体例をまとめたもの。専門的な知識や技術には走らず、小学生や中学生でも理解できるようなイラストを多く取り入れ、それをイメージ化させることにより指導が容易にできるよう配慮。「発声指導のポイント」「楽しい合唱への導入」「合唱指導の理論とテクニック」「発声指導のために」の4部構成。		
さくら・さくらんぼのリズムとうた：ヒトの子を 人間に育てる保育の実践, 改訂版	斎藤公子 著	群羊社
	376.157/879	
心身に障害を持つ子どもたちを多く園児に持ち、その子どもたちの可能性をひきだし、全面発達に導いた、さくら・さくらんぼ保育園のこれまでの実践の記録。子どもの発達について考え、また、当保育園のリズムあそびを紹介する。改訂版。		

ハーバード大学は、「音楽」で人を育てる	菅野恵理子 著	アルテスパブリッシング グ
	760/329	
イエール、スタンフォード、MIT……「音楽の知」を学び、奏でる 次世代のリーダーたち！ 総合大学に音楽学科や音楽学校が設置され、年間1000人以上の学生が音楽を履修するアメリカ。現代社会に通用する音楽家を育てるだけでなく、他分野の学生も音楽を積極的に学び、マルチな教養を身につける。 アメリカのトップ大学が取り組むリベラル・アーツ教育の最前線をレポート！ ハーバード大学——音楽で「多様な価値観を理解する力」を育む ニューヨーク大学——音楽で「歴史をとらえる力」を学ぶ マサチューセッツ工科大学——音楽で「創造的な思考力」を高める スタンフォード大学——音楽で「真理に迫る質問力」を高める カリフォルニア大学バークリー校——地域文化研究の一環として コロンビア大学とジュリアード音楽院——単位互換から協同学位へ 音楽家をめざす学生にも、一般科目を専攻する学生にも開かれたアメリカの音楽教育。いま、「大学で音楽を学ぶ」とは、「音楽とともに生きる」とはいかなることなのか？—— 現代社会に音楽を活かすヒント満載の書！ 音大の先生、学生、受験生、ご家族も必読！ あなたにとっての「音楽」の意味が見えてくる。		
クラシック作曲家大全：より深く楽しむために	芳野靖夫 監	日東書院本社
	762/265	
西暦1000年から現代までの作曲家の生涯、作風をその時代背景とともに時系列に沿ってこの一冊で理解できる。前半ページでは音楽・音程、ハーモニー・リズムの仕組み他、楽器の構造、歴史について解説があり、音楽について基礎知識を得ることができる。現存する貴重な資料をもとにつくられた完全永久保存版。		

出木良輔 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
コンビニ人間	村田沙耶香 著	文藝春秋
	913.6/726	
コンビニのバイト歴十八年目の古倉恵子。夢の中でもレジを打ち誰よりも大きくお客様に声をかける…現代の実存を軽やかに問う話題作。「普通」とは何か？ 現代の実存を軽やかに問う第155回芥川賞受賞作		
兎の眼	灰谷健次郎 著	角川書店
	S9/3725	
大学を出たばかりの新任教師・小谷芙美先生が受け持ったのは、学校では一言も口をきこうとしない一年生・鉄三。決して心を開かない鉄三に打ちのめされる小谷先生だったが、鉄三の祖父・バクじいさんや同僚の「教員ヤクザ」足立先生、そして学校の子どもたちとのふれ合いの中で、鉄三の中に隠された可能性の豊かさに気づいていくのだった……。すべての人の魂に、生涯消えない圧倒的な感動を刻みつける、灰谷健次郎の代表作。		
せんせい。	重松清 著	新潮社
	S9/10250	
先生、あのときは、すみませんでした―。授業そっちのけで夢を追いかけた先生。一人の生徒を好きになれなかった先生。厳しくすることでしか教え子に向き合えなかった先生。そして、そんな彼らに反発した生徒たち。けれど、オトナになればきっとわかる、あのとき、先生が教えてくれたこと。ほろ苦さとともに深く胸に染みいる、教師と生徒をめぐる六つの物語。		
丸の内魔法少女ミラクリーナ	村田沙耶香 著	KADOKAWA
	S9/23700	
36歳の茅ヶ崎リナは魔法のコンパクトで“変身”し、無理難題を押し付けられるストレスフルな会社員生活を乗り切っている。だが、親友を守るためモラハラ男と魔法少女ごっこをするのはめになり…ポップな出だしが一転、強烈な結末の表題作をはじめ、性別が禁止された学校で、恋に落ちた高校生の揺れ動く心が胸を打つ「無性教室」など4篇。物語でしか描けないリアルを容赦なく抉り、村田ワールドの神髄を堪能できる衝撃の短篇集！		

地球星人	村田沙耶香 著	新潮社
	S9/23697	
恋愛や生殖を強制する世間になじめず、ネットで見つけた夫と性行為なしの婚姻生活を送る34歳の奈月。夫とともに田舎の親戚の家を訪れた彼女は、いとこの由宇に再会する。小学生の頃、自らを魔法少女と宇宙人だと信じていた二人は秘密の恋人同士だった。だが大人になった由宇は「地球星人」の常識に洗脳されかけていて…。芥川賞受賞作『コンビニ人間』を超える驚愕をもたらす衝撃的傑作。		
イグアナの娘	萩尾望都 著	小学館
	S7/23712	
生まれてきたのは、イグアナの姿をした女の子！！ 親子の葛藤と愛憎をシュールな心象で描く異色短編集。		
トーマの心臓	萩尾望都 著	小学館
	S7/23713	
冬の終わりのその朝、1人の少年が死んだ。トーマ・ヴェルナー。そして、ユーリに残された1通の手紙。「これがぼくの愛、これがぼくの心臓の音」。信仰の暗い淵でもがくユーリ、父とユーリへの想いを秘めるオスカー、トーマに生き写しの転入生エーリク……。透明な季節を過ごすギムナジウムの少年たちに投げかけられた愛と試練と恩寵。今もなお光彩を放ち続ける萩尾望都初期の大傑作。		
二十四の瞳	壺井栄著	角川書店
	S9/3764	
昭和のはじめ、瀬戸内海べりの一寒村の小学校に赴任したばかりの大石先生と、個性豊かな12人の教え子たちによる、人情味あふれる物語。分教場でのふれあいを通じて絆を深めていった新米教師と子どもたちだったが、戦争の渦に巻き込まれながら、彼らの運命は大きく変えられてしまう…。戦争がもたらす不幸と悲劇、そして貧しい者がいつも虐げられることに対する厳しい怒りを訴えた不朽の名作。		
生命式	村田沙耶香	河出書房新社
	S9/22041	
「夫も食べてもらえると喜ぶと思うんで」。人口減少が急激に進む社会。そこでは、故人の肉を食べて、男女が交尾をする、新たな“葬式”がスタンダードになっていた…表題作「生命式」や「素敵な素材」など、著者自身がセレクトした十二篇を収録。はたして「正常は発狂の一種」か!?未体験の衝撃と話題になった、文学史上最も危険な短篇集。		
信仰 = Faith	村田沙耶香	文藝春秋社
	準備中	
世界中の読者を熱狂させる、村田沙耶香の最新短篇&エッセイ 「なあ、俺と、新しくカルト始めない？」 好きな言葉は「原価いくら？」で、現実こそが正しいのだと、強く信じている永岡。 同級生から、カルト商法を始めようと誘われた彼女は――。 信じることの危うさと切実さに痺れる8篇。		
ビューティフルからビューティフルへ	日比野コレコ 著	河出書房新社
	準備中	
絶望をドレスコードにして生きる高校三年生の静と、ネグレクト家庭に育ち「死にたい歴=年齢」のナナ。ある晩、受験生のナナが単語カードを片手に歩いていると、駅前でサイファーをしている若い男に声をかけられた。ナナは気まぐれで、彼=ビルEを、静と自分の通い慣れている「ことばあ」という老婆の家に誘うが―。軽やかなことば遊びと、たたみかけるようなパンチラインの奔流。生と死の両極に振り切れて乱反射する、高校生たちのモノローグ。第59回文藝賞受賞作。		

モモ100%	日比野コレコ著	河出書房新社
	準備中	
モモの退屈な日常に彗星のごとく現れた、トリックスター・星野。愛すべき文体で綴られた、命綱代わりの恋の哲学。文藝賞受賞第一作!		
風の歌を聴け	村上春樹著	講談社
	S9/7413	
一九七〇年の夏、海辺の街に帰省した“僕”は、友人の“鼠”とビールを飲み、介抱した女の子と親しくなって、退屈な時を送る。二人それぞれの愛の屈託をさりげなく受けとめてやるうちに、“僕”の夏はものうく、ほろ苦く過ぎさっていく。青春の一片を乾いた軽快なタッチで捉えた出色のデビュー作。群像新人賞受賞。		
パン屋再襲撃	村上春樹著	文藝春秋社
	準備中	
堪えがたいほどの空腹を覚えたある晩、彼女は断言した。「もう一度パン屋を襲うのよ」。それ以外に、学生時代にパン屋を襲撃して以来僕にかけられた呪いをとく方法はない。かくして妻と僕は中古カローラで、午前2時半の東京の街へ繰り出した…。表題作ほか「象の消滅」、「ねじまき鳥」の原型となった作品など、初期の傑作6篇。		
東京奇譚集	村上春樹著	新潮社
	S9/7848	
肉親の失踪、理不尽な死別、名前の忘却…。大切なものを突然に奪われた人々が、都会の片隅で迷い込んだのは、偶然と驚きにみちた世界だった。孤独なピアノ調律師の心に兆した微かな光の行方を追う「偶然の旅人」。サーファーの息子を喪った母の人生を描く「ハナレイ・ベイ」など、見慣れた世界の一瞬の盲点にかき消えたものたちの不可思議な運命を辿る5つの物語。		
眠れない夜は体を脱いで	彩瀬まる著	中央公論新社
	S9/22481	
自分の顔がじっくりこない男子高校生。五十過ぎに始めた合気道で若い男の子とペアを組むことになった会社員。恋人の元カノの存在に拘泥する女子大生。妻も部下もなぜ自分を不快にさせるのかと苛立つ銀行支店長。彼らは「手の画像を見せて」という不思議なネット掲示板に辿り着く…。「私」という違和感に優しく寄り添う物語。		
教育	遠野遥著	河出書房新社
	準備中	
超能力の成績向上のため日々鍛錬に励む私。「文藝」2021年秋季号掲載直後から話題沸騰の芥川賞受賞第一作にして初長篇。		

羽澄直子 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
シネマのなかの臨床心理学	山中康裕 他 編	有斐閣
	I46/600	
人間の心理と行動をヴィヴィットに描き出す〈映画〉は臨床心理学だけでなく人間研究の格好のテキストである。ユニークな英米文学作品の解説の書でもある。		
シネマで読むアメリカの歴史と宗教	栗林輝夫 他 著	キリスト新聞社
	253/205	
映画に描かれるアメリカ社会のさまざまな側面が丁寧に解説されています。背景知識を得てから鑑賞すると、映画の奥深さも、浅薄な一面も見えてきます。		

食べるアメリカ人	加藤裕子 著	大修館書店
	383/1647	
アメリカ人は、なぜあんなにマズい食事で平気なのか。もしも「アメリカ合衆国」が「ひとりの人間」だったら…というつもりで、「食」をテーマに観察する。日本人にしてみればちょっと不思議な感じがしないでもないアメリカ人の食べっぷり、まずは楽しんでみてください。		
シネマ女性学	松本侑壬子 著	論創社
	778/163	
時代を映す鏡である映画を手がかりにして、社会と女性、家庭と女性、仕事と女性の問題をジェンダーの視点から探る。		
映画でみる精神分析	小此木啓吾 著	彩樹社
	778/215	
英米文学の映画化作品をはじめ様々な国の名作を、精神分析医が専門知識を援用した独自の切り口で読み解く書である。		
昔話の深層	河合隼雄 著	福音館書店
	909/90	
日本を代表する著名なユング心理学の大家によるグリム童話の研究の書である。この本を読むと昔話は子ども向けの児童書ではないことが理解できる。		
お月さん、とんでるね：点頭てんかんの娘と共に生きて	夏野いづみ 著	銀の鈴社
	916/80	
羽澄先生からの推薦文 点頭てんかんと診断された娘との25年間の日々を綴っています。障がいを持つ子と向き合う親の姿を知ることは、将来教育・保育に携わる人にとって大事なことだと思います。親の視点で読むか、障がいを持つ子を受け入れる地域や学校の視点で読むかによってこの手記の印象は違ってくるのではないのでしょうか。		
フェミニズムの彼方：女性表現の深層	水田宗子 著	講談社
	930.2/342	
女性が女性としての<性>的存在である自分自身に向き合う時に、フェミニズムが発生する。この本を読むと、フェミニズムが社会と文化の在り方に大きな波紋を投げた20世紀という時代の全容が見渡せるようになる。		
Because I am a girl：わたしは女の子だから	アヴ・イン・ウェルシュ他 著 角田光代 訳	英治出版
	933/1160	
いろいろな国の作家が発展途上国に暮らす女性たちに会い、話し、書いた作品を集めたものです。男性社会のなかで長い間沈黙させられてきた女の子たちの声に耳を傾けてみてください。		
ちいさな大きなたからもの：特別養子縁組からはじまる家族のカタチ	瀬奈じゅん, 千田真司 著	方丈社
	S3/18965	
羽澄先生からの推薦文 元宝塚トップスターの瀬奈じゅんさんと千田真司さんご夫婦は不妊治療の辛い日々を経て、特別養子縁組で生後5日の赤ちゃんを家族に迎えました。「子どもの福祉」「親になること」「家族のかたち」について考えるきっかけになるエッセーです。		
国際共通語としての英語	鳥飼玖美子 著	講談社 (講談社現代新書)
	S8/9554	
日本の同時通訳の第一人者が豊富な経験を基に、英語を母語としない私たちがグローバル社会で身につけておきたい、ネイティブの単なる真似ではない自分らしい英語力とは何かを紹介します。		

服部幹雄 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
日本語と外国語	鈴木孝夫 著	岩波書店 (岩波新書)
	080/132/101	
辞書を頼りに小説や文献を読んでいるだけでは、他国や他民族の理解は難しいのではないか。六色の虹、黄色い太陽、恥部としての足など、興味深い例をあげながら、国による文化の違いを語るとともに、漢字の知られざる働きに光を当てて日本語の長所をも浮き彫りにする。真の国際理解を進める上で必読の、ことばについてのユニークな考察。		
実践日本人の英語	マーク・ピーターセン 著	岩波書店 (岩波新書)
	080/132/1420	
「春休みに、友人と一緒にタイに行きました」「お一人ですか?」「僕、今日、財布を忘れて310 円しか持ってないんだ」さて、英語では何と言う? 簡単な日本語でも、英語にする時には落とし穴がいっぱい。でも大丈夫、少しの注意で、正確な、大人にふさわしい英語で表現することができます。すぐに役立つ例文満載、待望の一冊!		
小学校英語のジレンマ	寺沢拓敬 著	岩波書店 (岩波新書)
	080/132/1826	
2020年4月から小学校で教科としての英語が始まる。「日本人の英語力向上の切り札」との期待と、「国語に悪い影響」「英語嫌いが増える」などの根強い反対を経て生まれた「小学校英語」のゆくえは?効果は?導入までの経緯を検証しつつ、教員の負担やグローバル化への対応など未解決の論点を網羅する画期的な一冊。		
英語独習法	今井むつみ 著	岩波書店 (岩波新書)
	080/132/1860	
英語の達人をめざすなら、類義語との違い、構文や文脈、共起語などの知識に支えられた高い語彙力が不可欠だ。記憶や学習のしくみを考えれば、多読や多聴は語彙力向上には向かない。語彙全体をシステムとして考え、日本語と英語の違いを自分で探究するのが合理的な勉強法なのだ。オンラインのコーパスや辞書を利用する実践的方法を紹介。		
教養としての言語学	鈴木孝夫 著	岩波書店 (岩波新書)
	080/132/460	
ひとりごとの時なぜ英語は自分のことをyouと言うのかなど、ことばをめぐる意外な事実や見過ごされてきた問題を、言語学の基本を丁寧に解説しながら解き明かす。『ことばと文化』『日本語と外国語』に続く待望の続編。		
日本人はなぜ英語ができないか	鈴木孝夫 著	岩波書店 (岩波新書)
	080/133/622	
非効率な日本の英語教育。その改革には発想の根本的転換が必要である。英語を義務教育から外す、国際理解はやめる、など意表をつく大胆な改革案を提示して、発信型の国際英語を身につけた人材を育てるための途を指し示す。		
外国語学習の科学	白井恭弘 著	岩波書店 (岩波新書)
	080/133/1150	
外国語の効果的な学習法が最新の言語習得理論に基づいて、わかりやすく紹介されている。		

ことばと思考	今井むつみ 著	岩波書店 (岩波新書)
	080/133/1278	
私たちは、ことばを通して世界を見たり、ものごとを考えたりする。では、異なる言語を話す日本人と外国人では。認識や思考のあり方は異なるのだろうか。「前・後・左・右」のない言語の位置表現、ことばの獲得が子どもの思考に与える影響など、興味深い調査・実験の成果をふんだんに紹介しながら、認知心理学の立場から語る。		
日本の感性が世界を変える	鈴木孝夫 著	新潮社 (新潮選書)
	080/141/297	
言葉と文化、自然と人間の営みに深い思索を重ねてきた著者が、世界の危機を見据えて語る《日本人の使命》とは？外国人が日本語を学ぶとなぜか礼儀正しくなる「タタミゼ効果」の不思議や、漢字に秘められた意外な力、そして日本の共生的自然観を西欧文明と対比させつつ、繊細だが強靱なこの国の感性を文明論として考える。		
「日本人と英語」の社会学	寺沢拓敬 著	研究社
	830.7/512	
日本人と英語をめぐる様々な意見や考え方がデータに基づいて検証されています。		
英語上達12のポイント	門田修平 著	コスモピア
	830.7/510	
第2言語習得の理論に基づいた科学的な英語学習法が紹介されています。		
英文法再入門：10のハードルの飛び越え方	澤井康佑 著	中央公論新社 (中公新書)
	835/991	
「英語は苦手、でももっと身につけたい」と思っている人に！英語が難しいのは、次の2つが原因です。1つは、英語が日本語と全然別の言語であるから、もう1つは中学・高校で正しい順番で学ばなかったからです。これらを意識して中学・高校の英文法をもう一度学んでみましょう。本書は、名詞の用法から5文型、誰もがつまづく不定詞句や関係詞まで、工夫を凝らした10の講義で解説。これで乗り越えられるはずですよ。		
「自分カメラ」の日本語「観客カメラ」の英語：英文法のコアをつかむ	熊谷高幸 著	新曜社
	835/992	
なぜ英語は冠詞が必要なのか？なぜ単数と複数とを区別するのか？日本語と英語の本質的な違いを「世界を捉えるカメラ」の違いにたとえると、その根拠がみごとに説明できる。日本人には理解しがたい英語の文法がストンと腑に落ちる画期的な英語論。		
言語の社会心理学	岡本真一郎 著	中央公論社 (中公新書)
	S8/9550	
「わたしの孫はおじいさんですよ」「わたしの孫はおばあさんですよ」。この会話は、一見すると不自然である。だが、当人たちは何の問題もなく意思疎通ができていく（第2章参照）。私たちは、ことばを「文字どおり」に使っているわけではない。話していないのに伝わることもあれば、丁寧に説明していても誤解されることがあるのはなぜか。社会心理学の視点から、敬意表現や皮肉など、対人関係のことばの謎に迫る。		
国際共通語としての英語	鳥飼玖美子 著	講談社 (講談社現代新書)
	S8/9554	
グローバル時代における必要な英語力とは何かを知るために役立つ一冊。		
英文法の疑問	大津由紀雄 著	NHK出版 (生活人新書)
	S8/10002	
細かい規則の寄せ集めとしての文法ではなく、英語の本質が見えてくる文法の本。		

日本語で外国人と話す技術	高嶋幸太 著	くろしお出版
	S8/22484	
外国人も日本語で話したい！？日本語を少し学んだ相手と楽しくコミュニケーションするためのコツとは？日本語教師が教えます！		
言語学の教室：哲学者と学ぶ認知言語学	西村義樹, 野矢茂樹 著	中央公論新社 (中公新書, 2220)
	S8/22483	
なにげない言葉に常識を揺さぶられる「認知言語学」の世界。哲学者と言語学者の対話が、ココロとコトバの不思議な関係を解き明かす。		
外国語を身につけるための日本語レッスン	三森ゆりか 著	白水社
	語学資料	
本当に必要なのは言語技術！		
言語の本質：ことばはどう生まれ、進化したか	今井むつみ, 秋田喜美 著	中央公論新社
	準備中	
日常生活の必需品であり、知性や芸術の源である言語。なぜヒトはことばを持つのか？子どもはいかにしてことばを覚えるのか？巨大システムの言語の起源とは？ヒトとAIや動物の違いは？言語の本質を問うことは、人間とは何かを考えることである。鍵は、オノマトペと、アブダクション(仮説形成)推論という人間特有の学ぶ力だ。認知科学者と言語学者が力を合わせ、言語の誕生と進化の謎を紐解き、ヒトの根源に迫る。		

堀祥子 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
みえるとかみえないとか	ヨシタケシンスケ さく；伊藤亜紗 そうだん	アリス館
	E/3043	
うちゅうもちきゅうもいっしょだな。おなじところをさがしながら、ちがうところをおたがいにおもしろがればいいんだね。“ちがいをかんがえる” えほん。		
目の見えない人は世界をどう見ているのか	伊藤亜紗 著	光文社
	S3/20632	
私たちは日々、五感—視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚—からたくさんの情報を得て生きている。なかでも視覚は特権的な位置を占め、人間が外界から得る情報の八〜九割は視覚に由来すると言われている。では、私たちが最も頼っている視覚という感覚を取り除いてみると、身体は、そして世界の捉え方はどうなるのか—？美学と現代アートを専門とする著者が、視覚障害者の空間認識、感覚の使い方、体の使い方、コミュニケーションの仕方、生きるための戦略としてのユーモアなどを分析。目の見えない人の「見方」に迫りながら、「見る」ことそのものを問い直す。		
手編みのハンカチKnitowel 101	marshall 著	日東書院本社
	準備中	
かぎ針でも棒針でも、初めて編むなら絶対コレ！ 人気No. 1、手編みのハンカチが今、熱い！ シンプルで簡単なものからデザインに凝ったものまで、全101作品を掲載！		
きょうの編みもの	三國万里子 著	文化出版局
	準備中	
暮らしの一部になった編む楽しさを伝えます		

堀部要子 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
LD(学習障害)の子どもたち：障害を知る本 子どものためのバリアフリーブック8	上野一彦 編, 稲沢潤子 文 オノビン, 田村孝 絵	大月書店
	369/1238/8	
LDってどういう意味？知的障害や自閉症とどこが違うの？LDの子はどういうところでつまづくのか、なぜLDという状態になるのか、診断のポイントなどを分かりやすく説明。学校教育を見直す必要性を訴える。		
読む・書く・記憶するのが困難なLDの子どもたち。：怠けてなんかない！：ディスレクシア	品川裕香 著	岩崎書店
	378.8/66	
読み書きができない「ディスレクシア」障害。その症例と具体的な方法を紹介。怠けているからできないんだ、と努力不足を責められ、教育的には置き去りにされ、深い失望感の中で生きているのが日本のディスレクシアの子どもたちの現状。		
会話のできない中学生がつづる内なる心：自閉症の僕が跳びはねる理由	東田直樹 著	エスコアール出版部
	378/900	
僕は跳びはねている時、気持ちは空に向かっていきます。空に吸い込まれてしまいたい思いが、僕の心を揺さぶるのです。人との会話が困難で、気持ちを伝えることができない自閉症者の心の声を、著者が13歳の時に記した本書。障害を個性に変えて生きる純粋でひたむきな言葉は、当事者や家族だけでなく、海をも越えて人々に希望と感動をもたらした。		
会話のできない高校生がたどる心の軌跡：自閉症の僕が跳びはねる理由 続	東田直樹 著	エスコアール出版部
	378/901	
考えてもみて下さい。生まれて一度も人に本当の言葉を伝えたことのない人間が、どんなに不安を抱えながら自分の言葉を伝えているのかを。皆が自閉症者に感じる「なぜ？」について当事者の気持ちをQ&Aで綴り、大反響を呼んだ前著。高校生編となる本書では、会話ができず苦しみ、もがく中で気づいた喜びや希望を生き生きと綴る。		
へんしんトンネル	あきやまただし 作・絵	金の星社 (あたらしい絵本)
	E/1171	
ようこそ、へんしんトンネルへ！ページをめくってはびっくり！かっぱが「かっぱかっぱ…」とつぶやきながらくぐると、「…ぱっかぱっか」と馬になって出てきました。絶対はまるたのしい絵本！		
きみのことがだいすき	いぬいさえこ さく・え	パイインターナショナル
	SE/22482	
この森には、小さくてふわふわのどうぶつがたくさんくらしています。どんなことをお話ししているのかのぞいてみたら…そこは、やさしさであふれていました。親子で読んでほしい、たくさんの愛を伝えられるメッセージ絵本。		
窓ぎわのトットちゃん	黒柳徹子 著	講談社 (講談社文庫)
	S9/2250	
「きみは、本当は、いい子なんだよ！」小林宗作先生は、トットちゃんを見かけると、いつもそういった。「そうです、私は、いい子です！」トモエ学園の個性を伸ばすユニークな教育と、そこに学ぶ子供たちをいきいきと描いた感動の名作。		

梼川知 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
日本語練習帳	大野晋 著	岩波書店 (岩波新書)
	080/132/596	
どうすればよりよく読めて書けるようになるか。何に気をつけどんな姿勢で文章に向かえばよいのか。練習問題に答えながら、単語に敏感になる習練から始めて、文の組み立て、文章の展開、敬語の基本など、日本語の骨格を理解し技能をみがく。学生・社会人のために著者が60年の研究を傾けて語る日本語トレーニングの手順。		
江戸の教育力	大石学 著	東京学芸大学出版社
	372.1/262	
意外や意外,江戸時代は武士も農民も町人も上下の別なく教育熱が高かった-----。武士の子弟が通う藩校は全国で300近く,庶民の手習所(寺子屋)はなんと約7万とも。当時の外国人も驚いたその教育の広まりは,実は明治以降の急速な近代化を支えたものでもあった。江戸時代を「初期近代」ととらえる,新たな見方を示す一冊。		
日本人の叡智	磯田道史 著	新潮社 (新潮選書)
	S1/17123	
先達の言葉にこそ、この国の叡智が詰まっている。仁愛を決断の基本とした小早川隆景、一癖ある者を登用した島津斉彬、時間と進歩の価値を熟知していた秋山真之、教養の正体を見抜いていた内田百閒、学問を支えるのは情緒と説いた岡潔…。約五百年にわたる日本の歴史の道程で生み出された九十八人の言葉と生涯に触れながら、素晴らしい日本人を発見する幸福を体感できる珠玉の名言集。		
早朝坐禅：凜とした生活のすすめ	山折哲雄 著	祥伝社 (祥伝社新書)
	S1/17129	
疲れたときはひとりになり、しばし沈黙せよ。静かに自分自身や自然と向き合うことが、人間関係の疲れを取り、豊かな人生を手に入れる最良の方法なのだ…。凜とした生活を送るために大切な身体作法を実践的に説く人生指南の書。		
格差と序列の日本史	山本博文 著	新潮社 (新潮選書)
	S2/17124	
歴史の基本構造は、ここからつかめ!時代の動きとともに国家や社会が姿を変えても、その特質は古代でも中世でも現代でも、いつも人の上下関係や順序にあらわれる。日本史の流れを大きく捉え直す一冊。		
教師の資質	諸富幸彦 著	朝日新聞社 (朝日新書)
	S3/10867	
教師の不祥事が取りざたされる今、本当に優れた教師は何をしているのか?いじめへのずさんな対応、体罰、暴言…教師の問題が注目されている現代で、本当に求められる資質とは何なのか。「教師を支える会」代表として、全国の学校の問題に取り組んできた著者が、最先端の教師像を説く。		
子どもが育つ江戸しぐさ	越川禮子 著	KKロングセラーズ
	S3/10868	
人と仲良く、思いやりをもって、あいさつのできる、元気な子どもに。日本人の心と体にしみ込んで生かされてきた、素晴らしい智恵の数々。		
いい子に育てると犯罪者になります	岡本茂樹 著	新潮社 (新潮選書)
	S3/17122	
「いい子」は危ない。自分の感情を表に出さず、親の期待する役割を演じ続け、無理を重ねているからだ。子どもが育つなかで、私たちが見過ごしている問題行動（とくに犯罪）の原点を明らかにし、その対処法を示す。		

江戸の躰と子育て	中江克己 著	祥伝社 (祥伝社新書)
	S3/17188	
江戸の人びとは「子は宝」といい、その誕生は親ばかりか、地域ぐるみで喜び、子を大切に育てようとした。遊びや食事、排泄、睡眠から教育まで厳しく、温かく、隣近所みんなで世話を焼いていた江戸時代の子育て事情を紹介する。		
和の思想：異質のものを共存させる力	長谷川耀 著	中央公論新社 (中公新書)
	S3/17282	
倭の時代から、外来の文物を喜んで迎え、選択・改良を繰り返してきた日本人。異質のものを調和させ、新たに創造する力としての「和」はどのように生まれ、日本人の生きる力となったのか。豊富な事例から和の原型に迫る。		
「教育七五三」の現場から	瀧井宏臣 著	祥伝社 (祥伝社新書)
	S3/4765	
親からは見えない、子どもたちの真の姿がここに。学校の中で、今なにが起きているのか？ 息子の通う小学校を通して教育現場と向き合ってきたジャーナリストが、2年余りにわたる取材結果を報告する		
日本を教育した人々	齋藤孝 著	筑摩書房 (ちくま新書)
	S3/7108	
資源に乏しい島国・日本にとって、未来のすべては「人づくり」にある。吉田松陰、福沢諭吉、夏目漱石、司馬遼太郎を例に、劣化する日本の再生の可能性を考える。		
日本の教師に伝えたいこと	大村はま 著	筑摩書房 (ちくま学芸文庫)
	S3/8984	
いきいきとした教室、これは全部の先生の悲しいほどの願いですーひとりひとりが確実に成長している実感がもてる、一所懸命生きている教室、そんな教室のために、教師がしなくてはならないことは何か。子どもたちが打ち込み、深く心に刻むことができるような授業のために、単元学習の実際、漢字学習の具体的な方法、読書、目標のさだめかた、しからない工夫、話し合いなど、実際に著者が教室で行ってきた工夫を紹介する。育てる迫力に満ち、畏れながらも力を尽くすー子どもたちの教育にかかわるすべての人に贈る一冊。		
日本語通	山口謠司 著	新潮社 (新潮選書)
	S8/17121	
藤原不比等が“プディパラのプピチョ”？ なぜ、太平洋は「太」で、大西洋は「大」なのか？ 遣唐使やザビエルの通訳は誰？ 「ら抜き言葉」の文豪とは？ ……思わず人に伝えたいくなるウンチクから、スリリングで奥深い日本語の世界に誘う。		
日本文化のキーワード：七つのやまと言葉	栗田勇 著	祥伝社 (祥伝社新書)
	S8/17128	
あわれ、におい、わび・さび、道、あそび、間、ありがとうー。絶えることなく用いられてきた日本の基本語“やまと言葉”を手がかりに、何千年たっても変わることのない、日本人の心の奥底に迫る。		
漢字に託した「日本の心」	笹原宏之 著	NHK出版 (NHK出版新書)
	S8/9593	
東アジア各地に広がる漢字文化。漢字への日本人の思いは強く、意味や音だけでなく情感や形にまでこだわり、他国には見られないほどの愛着をもってフル活用してきた。ひらがな、カタカナ、数々の国字も、漢字なしには生まれてはいない。漢字を消化・吸収し、考え、遊び戯れ、ときに悩み、誤解や曲解を重ねた2000年の歴史。それを見ていけば、日本人とは何かが見えてくる。		

村田あゆみ 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
絵本の本	中村 証子 著	福音館書店
	019/71	
「いい絵本ってなに?」「絵本はかわいいほうがいいんじゃないの?」「ほんとに絵本って子どもに必要なの?」保育の現場で、長年子どもたちと絵本を楽しんできた著者が、絵本にまつわるさまざまな疑問について、読者といっしょに考えながら、絵本のおもしろさ、魅力をいきいきと語ります。読めばきっと絵本の見方がかわる。保育者、そして保育者を目指す人はもちろん、子どもと絵本を楽しむすべての人に読んでほしい、そんな1冊です。		
読む力は生きる力	協明子 著	岩波書店
	019/79	
長年大学生を教え、「子どもの本の会」を主宰してきた著者が、「子どもが本を読むことの大切さ」をテーマに真正面から取り組み、たどりついた成果を、講演のようなやわらかい語り口で説く。		
子どもと本	松岡享子 著	岩波書店(岩波新書)
	019/133	
財団法人東京子ども図書館を設立、以後理事長として活躍する一方で、児童文学の翻訳、創作、研究をつづける第一人者である著者が、本のたのしみを分かち合うための神髄を綴る。ブックリストなども収録。		
えほん・絵本・134冊：子どもと大人をつなぐ。	増田喜昭 著 新田新一郎 責任編集	学研
	019/168	
子どもに絵本を選びたいけど、何を選ぶのがいいかわからなくて悩んでいる方におすすめしたい1冊です。絵本と関わる子どもの姿をずっとそばで見てきた著者だからこそ、選ぶことができた珠玉の134冊があなたの背中をそっと押しします。		
絵本は心のへその緒：赤ちゃんに語りかけるとい うこと	松井直 著	ブックスタート
	019/182	
赤ちゃんは、自分の絵本を舐めたり噛んだりしてボロボロにしてしまうかもしれない。でもそのまま大切に取っておき、やがて大人になる節目のときに「心のへその緒」として手渡してやってほしい。子どものころ、母親が大切にしまっておいた自分のへその緒を見つけ、感じ入った思い出を持つ松井直は、編集者として絵本に関わるなかで、絵本も同じような役割を果たすと考えるようになる。絵本と言葉がもたらすものを考察した発言の記録。		
つなみ：被災地の子どもたちの作文集：完全版	森健 編	文藝春秋
	369.3/59	
宮城、岩手の被災地の子どもたちの作文に加えて、原発事故に苦しみ、震災から1年あまりが経過した現在も、故郷に戻ることができない福島県の警戒区域に育った子どもたち、30人の作文を加えた、つなみ作文集の完全版である。東日本大震災による津波に直面した子供たちが、地震の瞬間や、津波を目の当たりにした時に何を感じたのか。家族や親友を失った悲しみ、避難所の暮らし、そして今、何を支えにしているのかを綴ってくれた文集。福島編では、震災から1年余を経ても、原発事故と放射能の問題で故郷に戻れない子どもたちの心情が作文によって綴られている。		
子どもはみんな問題児。	中川李枝子 著	新潮社
	379.9/212	
名作絵本「ぐりとぐら」の生みの親は母であり、数多くの子どもを預かり育てた保母でもありました。毎日がんばるお母さんへいま伝えたい、子どもの本質、育児の基本。「いざという時、子どもは強い」「ナンバーワンは、お母さん」「がみがみ言いたい気持ちを本で解消」……45のメッセージを収めた、心がほぐれる子育てバイブル。		

ちいさい言語学者の冒険：子どもに学ぶことばの秘密	広瀬友紀 著	岩波書店
	408/38/259	
「これ食べたら死ぬ？」どうして多くの子どもが同じような、大人だったらしない「間違い」をするのだろうか？ことばを身につける最中の子どもが見せる数々の珍プレーは、私たちのアタマの中にあることばの秘密を知る絶好の手がかり。言語獲得の冒険に立ち向かう子どもは、ちいさい言語学者なのだ。かつてのあなたや私もそうだったように。		
メディアにおしばまれる子どもたち：小児科医からのメッセージ	田澤雄作 著	教文館
	493.937/3	
メディア漬けと早期教育、塾やお稽古・スポーツ活動で、心も体も慢性疲労になっている子どもたち。ベテラン小児科医が、臨床現場で出会った子どもたちの〈叫びと物語〉をまとめ、心身の健康の回復の方法を手引きする。		
かんがえる子ども	安野光雅 著	福音館書店
	914.6/356	
50年以上にわたって、数々の驚きにみちた絵本を描いてきた、安野光雅。日本を代表する世界的画家が、「子ども」「学ぶこと」「考えること」について語る、痛快エッセイ！		
子どもに語る日本の昔話, 1	稲田和子, 筒井悦子 著	こぐま社
	J90/35/7-1	
語りやすく聞いて面白い、子どものための昔話集。自分で読むなら小学2、3年から。		
子どもに語るアンデルセンのお話	アンデルセン 著 松岡享子 編	こぐま社
	J90/35/10-1, J90/35/10-2	
声に出して子どもたちに届けたい、アンデルセンのお話。1巻:「一つさやから出た五つのエンドウ豆」「おやゆび姫」「皇帝の新しい着物」など全9話。語り手たちによる座談会も収録。2巻:「みにくいアヒルの子」「マッチ売りの少女」「人魚姫」など全8話。語る人へのアドバイスも収録。		
子どもに語るグリムの昔話, 1	グリム 著 ; 佐々梨代子, 野村 法 訳	こぐま社
	J90/35/13-1	
単純素朴で、人生のさまざまな面を垣間みせてくれる、グリムの昔話。本来口承で伝わってきたその魅力が充分伝わるように、長年グリムの話を語ってきた佐々梨代子とドイツ文学者野村法が共訳しました。		
未来のだるまちゃんへ	かこさとし 著	文藝春秋
	S7/16902	
『だるまちゃんてんぐちゃん』など数多の人気絵本を世に送り出してきた著者。19歳で敗戦を迎え、態度を変えた大人に失望した著者は「子供達のために役に立ちたい」と、セツルメント活動に励むようになる。そこでは、絵本創作の原点となる子供達との出会いがあった。全ての親子へ贈る、希望のメッセージ。		
1ねん1くみ1ばんワル	後藤竜二 作 長谷川知子 絵	ポプラ社
	SJ9/15470	
1ねん1くみの1ばんワルといわれるくろさわくん。きょうも団地の中を自転車にのって、あばれほうだいの大さわぎ。		
ライオンと魔女（ナルニア国物語 1）	C.S.ルイス 作 瀬田貞二 訳	岩波書店
	SJ9/21075-1	
地方の古い屋敷にやってきた4人きょうだいが、ある日大きな衣裳だんすに入ると、そこは雪の降りつもる別世界、ナルニア国だった。ナルニア国ものがたりシリーズ第1作。		

吉川直志 先生 推薦

書 名	著者名	出版社
	請求記号	
女性と学問と生活	坂東昌子 他	勁草書房
	376.2/60	
研究職に携わる女性の現状を直視し、ライフサイクルの視点から自己の形成過程、研究者としての成長過程及び家庭生活、健康、住環境の実態を総合的に捉え、問題提起を行う。		
センス・オブ・ワンダー	レイチェル・カーソン 著、上 遠恵子 訳	新潮社
	S4/12555	
子どもたちへの一番大切な贈りもの。美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性「センス・オブ・ワンダー」を育むために、子どもと一緒に自然を探検し、発見の喜びに胸をときめかせる。		
生物と無生物のあいだ	福岡伸一 著	講談社 (講談社現代新書)
	S4/9997	
生命とは何か？生命科学最大の謎に迫る！生物も無生物も、原子から成り立っている。しかし我々は瞬時にその違いを見抜く。いったい何が両者を分かつか？ ミステリー仕立てで読ませる分子生物学入門！		
わすれられないおくりもの	スーザン・バーレイ 作・絵 小川仁央 訳	評論社
	E/548	
アナグマは、もの知りでかしこく、みんなからとてもたよりにされていた。冬のはじめ、アナグマは死んだ。かけがえのない友を失った悲しめで、みんなはどうしていいかわからない…。友だちの素晴らしさ、生きるためのちえやくふうを伝えあっていくことの大切さを語り、心にしみる感動をのこす絵本です。		
もうダメされないための「科学」講義	菊池誠 他 編	光文社 (光文社新書)
	S4/9548	
科学とはなにか？科学と科学でないものの間は？科学不信はなぜ生まれるのか？科学を報じるメディアの問題とは？科学を上手に使うには？―学校が教えてくれない科学的な考え方を、稀代の論客たちが講義形式でわかりやすく解説。3・11以降の科学に対するモヤモヤがきれいになくなる一冊。		
理系の女の生き方ガイド：女性研究者に学ぶ自己 実現法	宇野賀津子、坂東昌子 著	講談社
	S4/12413	
女性研究者の最大の障害とされる結婚や子育ても、その経験を男にはまねのできない強みにしてしまおう。積極的でスマートな研究生活を送っている、先輩女性研究者からの実感アドバイス。理系をめざす女性たちに贈る熱いエール。		
ぼくたちはChatGPTをどう使うか：14歳から考 えるAI時代の学び	東大カルペ・ディエム著；西 岡壺誠監修	三笠書房
	準備中	
「考える力」と「自分で学ぶ力」が身につく！ 大人にも知ってほしいChatGPT勉強法！		